

令和 6 年 度
(2024年度)

事 業 年 報



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

青森県支部

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

赤十字基本原則

(1965年ウィーンで開催された第20回赤十字国際会議において採択)

人 道 赤十字は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間を尊重することを確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長する。

公 平 赤十字は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字はただ苦痛の度合いに従って個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦の場合を優先的に取り扱う。

中 立 すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時、いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教または思想的性格の闘争には参加しない。

独 立 赤十字は独立である。各国赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字の諸原則に従って行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

奉 仕 赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単 一 いかなる国にもただ一つの赤十字社しかあり得ない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世界性 赤十字は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

は じ め に

赤十字事業の推進につきましては、日頃から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様に深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

近年、全国各地で地震や大雨、山林火災等の自然災害が激甚化、頻発化しており、昨年1月の能登半島地震、7月下旬の秋田県・山形県での大雨災害、9月に再び能登半島地域を襲った豪雨災害、本年2月の岩手県大船渡市における山林火災などが発生しました。これら災害は大きな人的、物的被害をもたらしており、被災された方々に改めて心からお見舞いを申し上げます。

日本赤十字社では、こうした災害の発災直後から医療救護班や災害医療コーディネーターチーム、こころのケア班等を派遣するとともに、救援物資の配付、義援金の受付など、日赤の総力を結集し被災者の支援に取り組んでいます。

一方、国外においても、収束の兆しが見えない武力紛争や地震、洪水などの自然災害による人道危機に直面しており、日本赤十字社は、赤十字国際委員会や国際赤十字・赤新月社連盟、世界各国の赤十字社・赤新月社と連携し、救援・復興活動に尽力しています。

これら国内外における活動は、赤十字の活動に心を寄せてくださる方々に支えられているものであり、そこには困難な状況にある人たちを助けたいというお気持ちが込められていることを改めて胸に刻みながら、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を全うすべく、日本赤十字社の強みである総合力を生かし、赤十字活動を進めて参ります。

また、2027年に日本赤十字社は創立150周年を迎えます。この150周年は、これまでの歴史を振り返り、将来を見据えるよい機会であると捉えています。1877年に佐野常民が博愛社を創設して以来の歴史を踏まえ、創立の理念を軸に将来に向けて改革を進めていく機会にしたいと考えています。

地球環境、国際情勢、人口構造などの大きな構造変化の中にあって、私たちは「目の前の苦しんでいる人を救う」という赤十字の誕生以来変わらず守り続けてきた理念を実現していかなければなりません。当支部といたしましても、引き続き、支部、八戸赤十字病院、青森県立はまなす医療療育センター及び青森県赤十字血液センターが連携を深め、それぞれが有する資源と機能を最大限に活用しながら、多様な視点と柔軟な発想をもって赤十字活動を積極的に推進して参ります。

活動を支えてくださる皆様におかれましては、今後とも、当支部への変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年5月

日本赤十字社青森県支部

支部長 宮下 宗一郎

目 次

巻頭言

I 赤十字事業

1. 災害救護事業	1
2. 看護師養成事業	12
3. 救急法、健康生活支援講習等の講習普及事業	13
4. 赤十字奉仕団	15
5. 青少年赤十字	21
6. 国際活動	30
7. 社会福祉事業	32
8. 医療事業	34
9. 血液事業	36

II 活動資金募集と赤十字思想の普及

10. 活動資金の募集状況及び会員の現況	41
11. 赤十字思想の普及と広報活動	46
12. 青森県赤十字有功会	52

III 評議員会及び決算等

13. 評議員会及び監査	54
14. 令和6年度一般会計・特別会計決算報告	56
15. 支部役員・評議員	59

日本赤十字社長期ビジョン	60
--------------	----

日本赤十字社の組織と機構	61
--------------	----

日本赤十字社青森県支部現勢	62
---------------	----



1. 災害救護事業

災害救護活動は、赤十字本来の使命に基づく活動であるばかりでなく、日本赤十字社には災害救助法や災害対策基本法等で国及び地方自治体の防災・救助業務への協力が義務付けられている。

当支部では、常に災害に備えて救護員を養成し、訓練、研修を重ねている。そのほか、救護資材を整備し、救護体制を万全にするように努めている。

(1) 救護業務

① 災害に対する救援物資等の交付

県内で発生した火災（火災災害）、水害等の被災者に対して、見舞い品として毛布や緊急セットを交付基準に基づき交付している。また、県内で発生した災害により死亡した県内在住の被災者には香花料を交付している。

② 災害救援物資交付状況

品 名	数 量
毛 布	85
緊 急 セ ャ ッ ト	46

（救援物資の市町村別交付状況は、8、9ページ参照）

(2) 国内災害義援金受付状況

区 分	受付件数(件)	受付金額(円)
令和6年能登半島地震災害義援金	363	16,073,591
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	53	290,893
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	115	3,770,626
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	16	19,289
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	19	1,331,014
合 計	566	21,485,413

(3) 災害救護の体制及び救護班の訓練・研修

① 救護班の常備組織

災害が発生した場合、その規模に応じて災害地に救護班を派遣して、被災者の医療救護にあたっている。当支部では八戸赤十字病院に7個班及び支部、はまなす医療療育センター、血液センターの混成で1個班、計8個班を編成している。

令和6年度は、日赤本社の救護班編成基準（※）に基づいて、第1～7班は薬剤師、第8班は主事を加え、各班7人編成とした。

職 種 区 分	医 師 (班長) (人)	看護師長 (人)	看 護 師 (人)	主 事 (人)	薬剤師 or 助産師 (人)	計 (人)
1 個班の編成基準(※)	1	1	2	2	(1)	6 (7)
常備要員	8	8	16	17	7	56

② 各種訓練への参加状況

医療救護班等の訓練のため、次のとおり各種訓練に参加した。

- ・青森県原子力防災訓練（六ヶ所村）
- ・青森市総合防災訓練
- ・八戸市総合防災訓練
- ・SCU設置運営訓練（青森市）
- ・青森県総合防災訓練（弘前市）
- ・日赤第1ブロック支部合同災害救護訓練（北見市）（担当：北海道支部）

③ 赤十字救護班に対する研修の実施

近年、救護をめぐる概念や、方法論は目まぐるしく変化しており、特に災害発生直後において救出活動と連携して行われる医療活動（DMAT）との協働について、日本赤十字社においてもDMAT隊員を養成し取り組んでいるところである。

当支部管内では八戸赤十字病院がDMAT指定医療機関としての指定を受け、現在3チームのDMATを派遣できるようになっている。

救護班員養成については、八戸赤十字病院主導のDMAT隊員養成への派遣はもとより、引き続き、本社・ブロック主催の全国救護班研修、支部・病院主催の救護班要員基礎・中級研修により、救護員・指導者の養成を継続実施している。

（4）災害救護装備について

県内市町村における救護装備

- ・天幕、担架、移動炊飯器の配置

当支部では、災害に備え、県内各地区・分区に天幕等を配置し、災害時には赤十字地域奉仕団が迅速に炊き出し等を実施できるようにしている。

令和6年度の日幕、担架、移動炊飯器の使用状況は次のとおりである。

装備品名	使用回数	主たる使用状況
天 幕	10	防災訓練、避難訓練 ほか
担 架	3	避難訓練
移動炊飯器	31	奉仕団研修会、防災訓練 ほか

（天幕等の使用状況は、8、9 ページ参照）

・赤十字救援車「博愛号」の配置

当支部では、赤十字の理念とする「人道・博愛」の心について、赤十字活動を通じて広く県民に浸透を図り、市町村において地域住民の安全と健康の保持増進、福祉の向上を目的として赤十字救援車両「博愛号」を県内市町村に配置している。

令和6年度の配置概要は以下のとおりである。

車両配置先	配置月日	配置車両
おいらせ町	7月3日	ホンダ ステップワゴン
野辺地町	7月3日	
五戸町	7月11日	
階上町	7月11日	

(「博愛号」の使用状況は、10、11ページ参照)



おいらせ町役場での配置の様子
レプリカキーを受け取る成田分区長



野辺地町役場での配置の様子
レプリカキーを受け取る野村分区長



五戸町役場での配置の様子
レプリカキーを受け取る若宮分区長



階上町役場での配置の様子
レプリカキーを受け取る荒谷分区長

(5) 赤十字防災ボランティアについて

当支部では、赤十字防災ボランティアの組織化を図るため、現在、赤十字防災ボランティア及び赤十字地域防災ボランティアの2つのボランティアに対して、研修及び訓練を実施している。

① 赤十字防災ボランティア

災害が発生した際に、支部災害対策本部要員だけでは補いきれないことが想定されるため、有事の際に協働できることを目的に、研修及び訓練を実施している。令和6年度には、第1回目は、青森県健康医療福祉部医療業務課と合同でSCU（広域搬送拠点）設置訓練を青森

空港において実施した。これは、県内において大規模災害が発生し医療ニーズが切迫した場合に、航空機を使用し、域外（県外）に傷病者を搬送するための拠点となる場所で、その運営は主にDMA Tによって行われるが、県所有のテントを展開し設営する部分について、赤十字防災ボランティアに担ってもらうこととしている。第2回目は、（6）に記載の支部厳冬期訓練に含めて実施した。



SCU設置訓練の様子

② 赤十字地域防災ボランティア

地域赤十字奉仕団等の新しい活動として、地域包括ケアと災害時の共助の部分での活動をイメージした赤十字地域防災ボランティアの養成を令和6年度から始めた。

赤十字講習の中から、平時・有事にかかわらず活動に活用できる内容を厳選し、パッケージ化し1.5日の研修として受講していただき、修了試験を経て、平時には地域での集いの場としてのサロンなどにおいて各種ケアを提供、有事には被災者及び支援者に対してのケアの提供を目指している。





赤十字地域防災ボランティア養成研修の様子

(6) 支部厳冬期訓練について（令和7年1月18日～19日）

青森県支部は青森市にあり、冬期において最高気温は氷点下、積雪も市内で1メートルを超えることも珍しくなく、世界一雪深い都市と言われたこともある地域である。

厳冬期における災害発生に備え、防寒装備（衣類・寝袋等）を取り揃えているが、それ以外の自己完結に必要な装備については、実証検証を含めて確認されていない現状にある。冬期のキャンプなどにおいて様々な対応器具が発売されているが、比較的身近で容易に誰でも使用できるもので検証を行った。

今回、鳥取県支部から参加の2名及び支部防災ボランティアリーダー4名とともに、厳冬期において使用可能かどうか検証した。（これは令和5年度に企画されたが、能登半島地震災害への対応のため延期となり、今回実施したものである。）



支部厳冬期訓練の様子

(7) 赤十字防災セミナー

地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることで、地域の住民の方々が自ら、災害から命を守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指し、赤十字防災セミナーを行っている。

令和6年度の実施状況は、以下のとおり。

- ・実施回数 43回
- ・受講者数 2,304名



赤十字防災セミナー「ひなんじょたいいけん」の様子

災害救護活動用 救護装備・資機材の現有保管状況

項 目		支 部	八戸赤十字病院	計
車両		4	1	5
医療セット		0	2	2
携帯医療セット		1	0	1
テント	エアテント	2	1	3
	ドラッシュテント	3	1	4
	その他	10	1	11
担架		30	8	38
折畳寝台		30	5	35
担架兼用折畳寝台(ハコベルベッド)		2	0	2
発電機		9	2	11
エネルギー (1500W)		2	0	2
太陽光発電パネル		1	0	1
蓄電池 (小) (500W)		1	0	1
蓄電池 (タメルラボ2000N)		3	0	3
蓄電池 (タメルラボ6000N)		2	0	2
専用ソーラーパネルTSL-150		3	0	3
専用ソーラーパネルTSL-250		2	0	2
投光器		2	0	2
浄水機		1	0	1
衛星電話		2	4	6
災害時優先電話	固定電話	2	2	4
	携帯電話	3	20	23

令和6年度 災害救援物資の交付状況及び天幕等の使用状況表

区 分 市町村名		災害件数・災害種別				救援物資交付数				天幕等使用状況				備考
		り災 世帯数	被災 者数	火災 全焼	火災 半焼	風水害	毛布	緊急 セット	香花料 (円)	天幕	担架	寝台	炊飯器	
市	青 森 市													
	青 森 市	9	12	7	2	0	10	6	15,000	—	—	—	0	炊飯器 1 器
	青森市浪岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1	炊飯器 1 器
	弘 前 市	5	9	5	0	0	9	5	0	0	—	—	1	炊飯器 4 器
	八 戸 市	6	13	4	2	0	7	4	20,000	—	—	—	3	炊飯器 2 器
	黒 石 市	1	1	1	0	0	1	1	0	1	—	—	1	炊飯器 1 器
	五所川原市													
	五所川原市	3	3	1	0	2	2	0	5,000	0	—	—	1	炊飯器 1 器
	五所川原市金木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	2	炊飯器 1 器
	五所川原市市浦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	炊飯器 1 器
	十 和 田 市	5	10	4	1	0	10	5	0	0	—	—	—	
	三 沢 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	む つ 市													
	む つ 市	1	3	0	1	0	3	1	0	0	—	—	1	炊飯器 2 器
	むつ市川内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	むつ市大畑	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	
	むつ市脇野沢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	炊飯器 1 器
	つ が る 市	0	0	0	0	0	0	0	0	3	—	—	2	炊飯器 5 器
	平 川 市	3	5	1	2	0	5	2	5,000	0	—	—	2	炊飯器 3 器
市 計		33	56	23	8	2	47	24	45,000	4	0	0	16	
東地区	平 内 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	外ヶ浜町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	
	今 別 町	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	
	蓬 田 村	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	炊飯器 1 器
西地区	鰺ヶ沢町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	炊飯器 1 器
	深 浦 町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	—	2	炊飯器 2 器
中地区	西目屋村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	板 柳 町	1	1	0	0	1	1	1	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
南地区	藤 崎 町	2	3	2	0	0	3	2	0	—	—	—	2	炊飯器 3 器
	大 鰐 町	3	7	3	0	0	20	12	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	田舎館村	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	2	炊飯器 1 器
北地区	中 泊 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	1	炊飯器 1 器
	鶴 田 町	0	0	0	0	0	0	0	0	2	—	—	0	炊飯器 1 器

区 分 市町村名		災害件数・災害種別					救援物資交付数			天幕等使用状況				備考
		り 災 世帯数	被災 者数	火 災		風水害	毛布	緊 急 セツト	香花料 (円)	天幕	担架	寝台	炊飯器	
				全焼	半焼									
上北地区	野 辺 地 町	1	3	1	0	0	3	1	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	七 戸 町	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	
	六 戸 町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	—	0	炊飯器 2 器
	横 浜 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	東 北 町	1	3	1	0	0	3	1	0	—	—	—	1	炊飯器 2 器
	六ヶ所村	1	1	0	0	1	1	1	0	—	—	—	0	炊飯器 1 器
下北地区	大 間 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	炊飯器 1 器
	東 通 村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	炊飯器 2 器
	風 間 浦 村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	—	1	炊飯器 1 器
	佐 井 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 2 器
三戸地区	三 戸 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	五 戸 町	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	
	田 子 町	1	2	1	0	0	2	1	0	0	—	—	0	炊飯器 1 器
	南 部 町	3	5	3	0	0	3	2	10,000	0	—	—	3	炊飯器 3 器
	階 上 町	1	2	1	0	0	2	1	0	0	—	—	1	炊飯器 1 器
	新 郷 村	0	0	0	0	0	0	0	0	—	2	0	0	炊飯器 1 器
	おいらせ町	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
町 村 計		14	27	12	0	2	38	22	10,000	6	3	0	15	
合 計		47	83	35	8	4	85	46	55,000	10	3	0	31	

※天幕等使用状況については、数字は使用回数、— は保有無しを示します。

令和6年度 災害救援物資の在庫状況

	毛布(枚)	緊急セット	安眠セット	タオルケット(枚)
支 部 在 庫	2,013	475	480	1,176
市町村分置	282	160	6	50
合 計	2,295	635	486	1,226

※令和7年3月31日現在

令和6年度 赤十字救援車「博愛号」使用状況調

地区区分名		更新年度	当該年度 走行キロ数	延走行キロ数	備 考
市	青 森 市				
	青 森 市	H29	4,410	36,763	
	青森市浪岡	—	—	—	H29 廃止
	弘 前 市	R 5	1,857	1,891	
	八 戸 市	R 3	3,267	9,175	
	黒 石 市	H17	6,477	126,784	R 6. 7 廃止
		R 5	5,540	5,816	
	五 所 川 原 市				
	五所川原市	H30	5,968	30,312	
	五所川原市金木	H14	2,693	154,794	
	五所川原市市浦	H15	1,966	136,190	
	十 和 田 市	R 4	7,445	17,129	
	三 沢 市	H17	3,107	118,047	R 6. 4 廃止
		R 元	1,815	23,059	
	む つ 市				
	む つ 市	R 4	4,556	11,156	
	むつ市川内	—	—	—	R 3 廃止
	むつ市大畑	H18	1,675	162,783	むつ市地区から移管 R 4 廃止
	むつ市脇野沢	H17	3,136	125,454	
	つ が る 市	H11	1,733	108,913	
	平 川 市	R 2	4,437	18,162	
市 計			60,082	1,086,428	
東地区	平 内 町	H29	5,817	53,079	
	外 ケ 浜 町	H16	6,741	140,289	
		R 5	176	4,647	
	今 別 町	H28	2,334	45,181	
西地区	蓬 田 村	R 元	8,390	33,334	
	鰺 ケ 沢 町	R 3	4,576	11,086	
中地区	深 浦 町	H29	15,363	106,202	
	西 目 屋 村	—	—	—	H25 廃止
南地区	板 柳 町	H15	2,696	176,834	メーター交換有 R 6. 6 廃止
		R 4	4,951	7,263	
	藤 崎 町	R 元	4,399	26,807	
北地区	大 鰐 町	R 3	3,722	12,893	
	田 舎 館 村	H30	3,034	17,035	
	中 泊 町	H12	6,287	235,071	
		H28	4,755	48,458	
北地区	鶴 田 町	H30	7,054	42,550	

地区分区名		更新年度	当該年度 走行キロ数	延走行キロ数	備 考
上 北 地 区	野 辺 地 町	R 6	1,740	1,740	
	七 戸 町	R 2	3,404	25,029	
	六 戸 町	H19	6,576	227,571	
	横 浜 町	H30	7,371	59,997	
	東 北 町	R 3	8,379	25,007	
	六 ヶ 所 村	H29	11,682	85,310	
下 北 地 区	大 間 町	R 5	3,825	3,825	
	東 通 村	H21	2,898	177,200	R 6.12廃止
	風 間 浦 村	R 2	5,903	21,938	
	佐 井 村	R元	16,160	65,005	
三 戸 地 区	三 戸 町	R 4	7,523	18,743	
	五 戸 町	H21	3,084	148,944	R 6. 9 廃止
		R 6	2,100	2,100	
	田 子 町	H28	2,459	41,303	
	南 部 町	H28	4,558	58,072	
	階 上 町	R 6	6,652	6,652	
	新 郷 村	R 2	10,529	38,872	
	お い ら せ 町	H17	5,817	243,400	R 6. 8 廃止
		H18	5,293	147,099	
R 6		5,806	5,806		
町 村 計			202,054	2,364,342	
合 計			262,136	3,450,770	



2. 看護師養成事業

日本赤十字社では赤十字の理念に基づいた看護が実践できるよう、看護教育を行っている。また、このような理念に基づき、地域医療はもとより、国内外の災害救援の現場で即戦力として活躍できるような質の高い看護師を養成するべく、各都道府県支部では看護師養成事業を実施しており、当支部では、日本赤十字秋田看護大学において看護師の養成を行っている。

養成された学生は、卒業後に八戸赤十字病院へ勤務しつつ訓練を重ね、災害時に災害救護要員として医療救護班に編入される。

令和6年度の学年別養成者は次のとおりである。

赤十字看護教育施設	学 年	人 数
日本赤十字秋田看護大学	1 年	2 名
	2 年	2 名
	3 年	2 名
	4 年	1 名
計	7 名	



3. 救急法、健康生活支援講習等の講習普及事業

健康で安全な生活を送るために、日本赤十字社では広く一般の人々に「いのちと健康を守る講習会」を行っている。高齢社会を迎え、救命率向上のためには、市民による事故現場における一次救命処置の実施がより重要となってきたことなどから、指導員養成講習を実施し、体制拡充を行った。令和6年度の普及状況は、以下のとおりである。

(1) 講習会実施状況

① 赤十字救急法

日常生活における事故の防止、手当の基本、心肺蘇生法等の講習を実施した。

講習種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)	修了者数 (人)	養成者数 (人)
基礎講習	29	475	471	—
救急員養成講習	8	207	207	205
短期講習	128	3,941	—	—
指導員養成講習	1	15	15	14
計	166	4,638	693	219

② 赤十字水上安全法

水と親しみ、水の事故から人命を守るために、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などの知識と技術を学ぶ講習を実施した。

講習種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)	修了者数 (人)	養成者数 (人)
救助員Ⅰ養成講習	4	12	12	10
救助員Ⅱ養成講習	0	0	0	0
短期講習	37	2,241	—	—
(内)着衣泳講習会	(27)	(1,668)	—	—
計	41	2,253	12	10

③ 赤十字幼児安全法

子どもを社会全体で育むうえで、大切な自助・互助・共助・公助を踏まえて、子どもの命を守るために必要な接し方や、事故の予防・手当・看病の方法を学ぶ講習を実施した。

講習種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)	修了者数 (人)	養成者数 (人)
支援員養成講習	2	14	14	14
短期講習	22	679	—	—
指導員養成講習	1	8	8	8
計	25	701	22	22

④ 赤十字健康生活支援講習

健康寿命を延ばし、自身が健やかな高齢期を迎えるための介護や認知症の予防のほか、地域で高齢者を支援するときに役立つ知識や技術等について学ぶ講習を実施した。

講習種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)	修了者数 (人)	養成者数 (人)
支援員養成講習	0	0	0	0
短期講習	10	245	—	—
計	10	245	0	0

(2) 救急法等指導員在籍状況

各講習会の指導にあたる指導員の在籍状況は次のとおりである。(令和7年3月31日現在)

区 分	赤十字職員		ボランティア (人)	合 計 (人)
	支部 (人)	施設 (人)		
救 急 法	10	14	63	87
水 上 安 全 法 I	1	0	6	7
水 上 安 全 法 II	0	1	22	23
幼 児 安 全 法	3	2	7	12
健康生活支援講習	2	1	2	5
雪 上 安 全 法	0	0	0	0

※令和6年度に養成した救急法指導員14名、幼児安全法指導員8名は、令和7年に実施の新任指導員養成研修会終了後、登録となるため、この表には含まれていない。

(3) 講習普及事業における特色ある事業

青森県高等学校総合文化祭の青少年赤十字部門で実施されている「救急法コンクール」では、県内青少年赤十字メンバーによる救急法を用いた実技競技会が開催されている。当支部では、このコンクールに向けた講習の実施、出場チームへの指導、コンクール当日の審査などの支援協力を行っている。

令和6年度は、8校から各1チームが出場し、日頃の練習の成果を発揮し、競い合った。

第45回青森県高等学校総合文化祭 青少年赤十字部門「救急法コンクール」

1. 月 日 令和6年10月19日(土)
2. 会 場 青森中央高等学校
3. 出場チーム 青森山田高等学校、青森明の星高等学校、木造高等学校、弘前高等学校、弘前中央高等学校、七戸高等学校、八戸西高等学校、千葉学園高等学校



救急法コンクールの様子



救急法短期講習の様子

(4) 子育て支援等に関する連携協定(十和田市と令和4年8月23日締結)による講習の実施

令和6年度は、十和田市のファミリーサポートセンターの会員や放課後児童クラブ、保育士を対象に子どもの救命処置等の講習を実施した。(5回、51名)



4. 赤十字奉仕団

県内の赤十字奉仕団は、各市町村に組織されている地域赤十字奉仕団と、支部直轄の青年・特殊赤十字奉仕団で組織され、6,160名の団員で構成されている。

令和6年度は各地で研修活動が積極的に実施された。実施された研修会は、従来型の奉仕団単独で実施されたもののほか、地域の小中学校や町内会、社会福祉協議会等の他団体、地域のボランティアと連携した研修会を実施した奉仕団もあり、地域とのつながりをより意識した活動への取り組みが多く見られた。また、令和4年度から行っている災害への備えと活動の強化を目的とした支部主催「合同防災研修会」には、13の地域奉仕団が参加し、研修会の目標である近隣奉仕団による連携強化と一体感の醸成を図ることができた。

また、新規事業として広く支部事業や災害ボランティアとして活動する個人ボランティアの募集を開始した。今後、新たなボランティア層の掘り起こし、ボランティア活動への参加を希望する人たちの受け皿になることが期待される。

なお、令和6年度の活動状況は以下のとおり。

(1) 令和6年度赤十字奉仕団活動テーマ

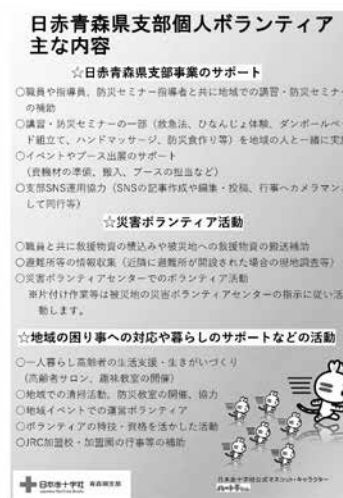
共に生きる喜びを分かちあう赤十字奉仕団活動～地域と連携し防災・減災を普及しよう～

(2) 令和6年度赤十字奉仕団重点施策

- 1 災害への備えと活動の強化
- 2 地域との連携と他団体や奉仕団相互との協働の推進
- 3 地域のニーズに即した主体的で積極的な赤十字奉仕団活動の促進
- 4 赤十字奉仕団員の意識向上やスキルアップのための研修の充実・強化
- 5 広報活動の充実・強化
- 6 赤十字会員増強・活動資金増収運動への協力

(3) 令和6年度個人ボランティアの登録状況

登録者数 4名（令和7年3月31日現在）



(4) 赤十字奉仕団組織の状況について（令和7年3月31日現在）

① 令和6年度末時点の組織の状況

	団 数	分団数	団 員 数		合 計
			男 性	女 性	
地域奉仕団	46	174	1,021	4,441	5,462
青年奉仕団	4	0	34	73	107
特殊奉仕団	9	25	325	266	591
合 計	59	199	1,380	4,780	6,160

② 組織の状況の推移

	団 数	分団数	団 員 数		合 計	備 考
			男 性	女 性		
令和6年度	59	199	1,380	4,780	6,160	
令和5年度	59	224	1,533	5,927	7,460	
令和4年度	60	229	1,526	6,065	7,591	
令和3年度	59	237	1,522	6,206	7,728	



合同防災研修会で防災士と救急法を実施するむつ市赤十字奉仕団員、川内赤十字奉仕団、大畑分団赤十字奉仕団、脇野沢赤十字奉仕団



小泊合同防災訓練でハイゼックスを使用した炊き出しを実施する小泊赤十字奉仕団と小泊中学生



段ボールベッド組立て体験をする五所川原市赤十字奉仕団三好分団、JA五所つがる、三好婦人防火クラブ



合同防災研修会で防災セミナー「ひなんじょたいけん」を実施する十和田市赤十字奉仕団と東北町赤十字奉仕団

(5) 赤十字奉仕団組織現況（令和7年3月31日現在）

① 地域奉仕団

令和7年3月31日 現在

区分	奉仕団名	結成年月日	委員長名	分団数	班 数	男	女	計	組織母体
市	青 森 市	S 33. 9. 9	花 田 初 枝	3	0	4	33	37	町会有志 市内有志
	青森市浪岡分区	S 34. 9. 30	小 倉 保 英	0	0	19	111	130	民生委員 保健協力員
	弘 前 市	H 20. 4. 1	小 柳 紀八郎	14	59	158	578	736	婦人有志 町会有志
	黒 石 市	S 33. 5. 20	北 山 リ ッ	2	6	0	39	39	連合婦人会
	五所川原市	S 33. 9. 15	小 野 慶 子	4	0	0	241	241	連合婦人会 市民有志
	金 木 町	S 50. 3. 27	外 崎 れい子	5	0	0	137	137	連合婦人会
	市 浦	S 51. 4. 30	三 浦 つや子	5	33	0	58	58	行政連絡員 婦人会
	十和田市	H 17. 1. 1	畑 中 チ ヨ	9	22	149	179	328	婦人・町内有志
	三 沢 市	S 50. 7. 12	沼 田 弘 子	3	13	4	87	91	婦人有志・市民有志
	む つ 市	S 49. 3. 30	森 小 静 子	5	0	16	55	71	町会有志 婦人会
	むつ市川内	S 50. 2. 1	石 倉 司	0	8	2	160	162	連合婦人会 町内有志
	むつ市脇野沢	S 50. 6. 28	濱 田 順 子	2	0	0	40	40	連合婦人会
	むつ市大畑分区	S 50. 3. 24	伝 法 百合子	4	0	0	60	60	連合婦人会他
	つ が る 市	H 18. 4. 1	吉 田 博 身	5	3	36	169	205	民生委員 婦人会 行政連絡員
	平川市平賀	S 52. 1. 27	小笠原 勝 則	5	0	25	96	121	ボランティアグループ
	平川市尾上	S 33. 9. 19	西 谷 桂 子	2	0	0	13	13	連合婦人会
計 16団				68	144	413	2,056	2,469	
東地区	平 内 町	S 48. 10. 9	三津谷 志津子	2	9	0	76	76	婦人会
	外ヶ浜町	H 17. 4. 1	高 森 キクエ	3	16	30	246	276	婦人会 町内有志
	今 別 町	S 33. 9. 5	阿 部 和 江	7	0	0	51	51	連合婦人会 婦人会OB 町内有志
	蓬 田 村	S 38. 9. 23	小 野 富美子	3	0	0	38	38	連合婦人会 婦人有志
	計 4団			15	25	30	411	441	
西地区	鯨ヶ沢町	S 53. 8. 11	豊 沢 豊 彦	6	31	24	166	190	民生委員 町内有志 婦人会
	深 浦 町	H 18. 4. 1	堀 内 カ ッ	9	0	11	143	154	民生委員 連合婦人会
	計 2団			15	31	35	309	344	
中南地区	西目屋村	S 53. 6. 28	三 上 文 子	3	0	1	36	37	民生委員 連合婦人会 食生活改善委員 老人C連合会
	板 柳 町	S 51. 11. 30	米 澤 ノブ子	0	0	0	20	20	婦人・町内有志
	藤 崎 町	H 18. 4. 1	神 ノブ子	2	13	0	108	108	婦人会
	大 鰐 町	S 36. 10. 13	田 中 あ ゑ	0	0	0	39	39	婦人有志
	田舎館村	S 51. 8. 9	工 藤 泰 子	0	0	10	76	86	民生委員 保健協力員
	計 5団			5	13	11	279	290	
北地区	鶴 田 町	S 49. 4. 1	宮 本 弘 子	2	0	0	23	23	婦人会
	中泊町分区中里	S 53. 9. 1	川 島 久 幸	3	0	6	78	84	民生委員 婦人会
	中泊町分区小泊	S 36. 10. 13	秋 元 英 子	3	0	7	109	116	婦人会 村内有志
	計 3団			8	0	13	210	223	

区分	奉仕団名	結成年月日	委員長名	分団数	班 数	男	女	計	組織母体
上北地区	野 辺 地 町	S33. 9. 1	太 田 富 江	4	0	0	51	51	連合婦人会
	七 戸 町	H21. 4. 1	五十嵐 み よ	2	13	1	53	54	民生委員 更生保護女性会 手話サークル 婦人有志
	横 浜 町	S50. 2. 14	竹 田 礼 子	2	0	4	31	35	民生委員 ボランティアグループ
	東 北 町	H17. 12. 15	原 子 スワ子	0	0	0	34	34	婦人会 町内有志
	六ヶ所村	S51. 12. 24	葛 西 奈栄子	0	0	4	79	83	子供会世話人 青年・婦人有志
	計 5団			8	13	9	248	257	
下北地区	大 間 町	S52. 2. 10	泉 晃	2	0	0	83	83	婦人会
	東 通 村	S51. 7. 5	伊 藤 貢 子	5	0	0	59	59	連合婦人会
	風間浦村	S53. 1. 28	原 子 恒 子	4	0	1	50	51	連合婦人会
	佐 井 村	S36. 10. 13	内 藤 要	7	0	125	90	215	婦人有志 他
	計 4団			18	0	126	282	408	
三戸地区	三 戸 町	S49. 9. 7	田 中 愛一郎	2	0	23	28	51	民生委員 婦人会
	五 戸 町	H16. 7. 1	川 崎 由希子	9	0	1	78	79	連合婦人会
	田 子 町	S50. 7. 21	川 村 武 司	4	54	311	191	502	老人クラブ 自治会 婦人会 民生委員
	南 部 町	H18. 4. 1	掛 端 麻美子	7	0	28	113	141	民生委員 老人クラブ 婦人会 母の会 有志
	階 上 町	S36. 10. 13	山 内 良 子	3	12	0	43	43	有志
	新 郷 村	S50. 2. 27	長 野 良 子	4	0	0	36	36	自治会代表 婦人会
	おいらせ町	H18. 4. 1	大 村 ミ ツ	8	0	21	157	178	民生委員 老人クラブ 有志
	計 7団			37	66	384	646	1,030	
合計 46団				174	292	1,021	4,441	5,462	

※地域奉仕団の地区区分は、青森県行政機関設置条例に定める地域県民局（地域健康福祉部）の所管に基づいている板柳町が中南地区、おいらせ町が三戸地区となっている。



厚生労働大臣表彰及び県ふれあい活動功労者知事表彰
 厚生労働大臣表彰
 中央左 点訳・音訳・デジジー編集赤十字奉仕団委員長
 中央右 水上安全法奉仕団委員長
 県ふれあい活動功労者知事表彰
 左端 救急法奉仕団副委員長
 右端 アマチュア無線奉仕団委員長



ハイゼックス袋を使用した炊出しを実施する木浪学園赤十字ボランティア

② 特別奉仕団

区分	奉仕団名	結成年月日	委員長名	分団数	班数	男	女	計
青年奉仕団	平賀（休団）	S41. 2. 14	長 浜 貴 弘	0	0	0	0	0
	佐井村	S56. 4. 1	田 中 伸 弥	0	0	23	7	30
	木浪学園赤十字ボランティア	H25. 6. 25	小田桐 優 稀	0	0	10	44	54
	青森県立保健大学めいと	R 4. 10. 2	上 原 咲 和	0	0	11	12	23
	計 4団			0	0	44	63	107
特殊奉仕団	点訳・音訳・デイジー編集	S44. 1. 19	中 井 睦	7	5	12	138	150
	水上安全法	S37. 7. 25	江 良 直 志	0	0	14	16	30
	救急法	S44. 11. 12	西 村 芳 樹	5	0	51	33	84
	アマチュア無線	S47. 5. 21	佐 藤 眸	7	0	93	1	94
	碇ヶ関家庭看護法	S52. 3. 8	大 川 富 子	0	0	1	17	18
	黒石市家庭看護法	S57. 3. 1	高 橋 チ ヨ	0	0	0	18	18
	岩木山パトロール隊	S59. 4. 29	一 戸 繁 輝	0	0	48	2	50
	支部家庭看護法	S61. 11. 18	山 本 初 枝	0	0	0	10	10
	青森県青少年赤十字賛助	H14. 7. 25	佐 藤 光 則	6	0	106	31	137
	計 9団			25	5	325	266	591

総計	団数	分団数	班数	男	女	合計
	59	199	297	1,380	4,780	6,160

（6）令和6年度赤十字奉仕団支部委員会名簿

役 職	氏 名	所属奉仕団
委 員 長	沼 田 弘 子	三沢市赤十字奉仕団委員長
副委員長	小 柳 紀八郎	弘前市赤十字奉仕団委員長
副委員長	小 野 慶 子	五所川原市赤十字奉仕団委員長

（7）令和6年度赤十字奉仕団指導講師名簿

担当地区	氏 名	
東 青 地 区	工 藤 耕 弘	湯 沢 富 雄
西 北 五 地 区	小田川 修 三	野 呂 良 悦
	三 橋 一 晃	—
中弘南黒地区	山 本 仁 志	—
上 十 三 地 区	天 内 不 二 子	塚 本 知 玄
むつ下北地区	二本柳 卓	—
三 八 地 区	中 村 正	坂 本 晴 美

令和6年度 赤十字奉仕団関係実施状況（日赤本社・支部ほか）

	実施日	行 事 名	開催場所	対 象
4	12日(金)	赤十字奉仕団指導講師会議	支部	指導講師
5	10日(金)	赤十字奉仕団支部委員会 (県下委員長会議)	青森市リンクステーションホール青森	奉仕団委員長
	11日(土)	青年赤十字奉仕団全国協議会	Web会議方式	青奉全国協議会委員
	15日(水)	全国赤十字大会	東京都 明治神宮会館	赤十字関係者
	30日(木)～ 31日(金)	赤十字奉仕団中央委員会	日赤本社	支部委員会代表者
6	15日(土)～ 16日(日)	青年赤十字奉仕団第1B協議会	日赤秋田県支部	青年奉仕団県連絡協議会長
	21日(金)	奉仕団基礎研修会	青森市リンクステーションホール青森	赤十字奉仕団員
7	5日(金)	支部赤十字奉仕団担当者会議	オンライン会議	支部職員
	17日(水)	東青地区委員長事務担当者会議	支部	委員長、事務担当者
	22日(月)	三戸地区委員長事務担当者会議	ユートリー八戸	委員長、事務担当者
	31日(水)	西北地区委員長事務担当者会議	ホテルサンルート五所川原	委員長、事務担当者
8	24日(土)～ 27日(火)	赤十字ボランティアリーダー研修会	東京都国立オリンピック記念センター	奉仕団員
	9日(金)	下北地区委員長事務担当者会議	むつ合同庁舎	委員長、事務担当者
	21日(水)	上十三地区委員長事務担当者会議	サン・ロイヤルとわだ	委員長、事務担当者
9	27日(金)	赤十字奉仕団リーダーシップ研修会	青森市リンクステーションホール青森	赤十字奉仕団員
10	2日(水)	三戸地区活動研究会	ハートフルプラザはしかみ	各委員長、団員、地区・ 分区担当者
	11日(金)	赤十字奉仕団合同防災研修会 (野辺地町・横浜町)	野辺地町健康増進センター	奉仕団員
	18日(金)	赤十字奉仕団合同防災研修会 (五所川原市・金木町・市浦)	金木町公民館	奉仕団員
	22日(火)	むつ下北地区活動研究会	風間浦村総合福祉センター げんきかん	奉仕団員
11	6日(水)	赤十字奉仕団合同防災研修会 (五戸町・新郷村)	五戸町倉石コミュニティセンター	奉仕団員
	18日(月)	赤十字奉仕団合同防災研修会 (十和田市・東北町)	十和田市役所別館	奉仕団員
	26日(火)	中南地区活動研究会	西目屋村中央公民館	各委員長、団員、地区・ 分区担当者
	29日(金)	赤十字奉仕団合同防災研修会 (むつ市・川内・大畑・脇野沢)	下北文化会館	奉仕団員
12	1日(日)～ 25日(水)	NHK海外たすけあいキャンペーン	全国一斉	関係者
1	25日(土)～ 27日(月)	赤十字奉仕団支部指導講師研修会	日赤本社	三橋指導講師 坂本指導講師
3	12日(水)	赤十字奉仕団強化推進会議	支部	支部委員会役員、指導講師



5. 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字の理念を正しく理解し、自発的に赤十字運動に参画することを目指す取組みであり、世界の平和と人類の福祉に寄与するとともに、日常生活の中において望ましい人格と精神をつくりあげることが目的としている。

幼稚園、保育所、小・中・高等学校、特別支援学校等において、教師等の指導のもと、「気づき、考え、実行する」という態度目標に基づき展開されている。

令和6年度においては336の施設・学校から総数31,076名のメンバーが登録した。県内各地区の多くが作品展、集い交流会、リーダーシップ・トレーニング・センターなどの活動を実施した。

青森県支部主催行事においても、夏期開催の高校リーダーシップ・トレーニング・センターと冬期開催の高校リーダー研修会をそれぞれ2泊3日の宿泊形式で開催することができた。



西北五地区子ども赤十字交流会



中弘南黒地区青少年赤十字の集い



三八地区リーダーシップ・トレーニング・センター



高校リーダーシップ・トレーニング・センター

(1) 令和6年度青少年赤十字加盟登録状況（令和7年3月31日現在）

① 加盟施設・学校数

区 分	加盟校数	加盟校数内訳		学級 グループ数	登録人員数		
		継続加盟	新規加盟		男	女	計
幼稚園	29	29	0	110	725	746	1,471
保育所(園)	143	143	0	575	3,395	3,320	6,715
小学校	80	79	1	786	7,143	6,679	13,822
中学校	41	40	1	363	4,133	3,965	8,098
高等学校	41	41	0	55	274	476	750
特別支援学校	2	2	0	52	149	71	220
計	336	334	2	1,941	15,819	15,257	31,076

※ 指導者数 3,931人

② 加盟状況

幼稚園			
継 続 加 盟	29	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	0		
統 廃 合	0		
脱退・休止	0		
保育所（園）			
継 続 加 盟	143	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	0		
統 廃 合	0		
脱退・休止	3	浪岡若葉こども園（青森市）／河原木中央保育園（八戸市）／ 新井田こども園（八戸市）	
小学校			
継 続 加 盟	79	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	1	和徳小学校（弘前市）	
統 廃 合	1	正津川小学校（むつ市）	
脱退・休止	5	野内小学校（青森市）／大曲小学校（六戸町）／切谷内小学校（五戸町）／ 道仏小学校（階上町）／石鉢小学校（三戸町）	
中学校			
継 続 加 盟	40	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	1	北稜中学校（八戸市）	
統 廃 合	0		
脱退・休止	1	浪岡中学校（青森市）	
高等学校			
継 続 加 盟	41	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	0		
統 廃 合	0		
脱退・休止	0		
特別支援学校			
継 続 加 盟	2	別紙 一覧表のとおり	
新 規 登 録	0		
統 廃 合	0		
脱退・休止	0		

③ 令和6年度 青少年赤十字地区別加盟登録一覧

令和7年3月31日現在

東青地区							西北五地区						
市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援	市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援
青森市	1 青中短1	1 和幸	1 高田	1 北	1 青森西	1 青森第一養護	五所川原市	1 金木	1 七和	1 五所川原	1 金木	1 五所川原商業	
	2 青中短2	2 幸畑	2 荒川	2 佃	2 東奥学園					2 三好	2 市浦	2 五所川原	
	3 青中短3	3 千富	3 浪岡北	3 荒川	3 青森中央					3 三輪			
	4 油川	4 佃	4 浪岡南	4 東	4 青森北					4 東峰			
	5 東奥	5 泉川	5 本郷	5 西	5 明の星					5 栄			
	6 あすなろ	6 あおもりみなみこども園		6 筒井	6 青森東					6 金木			
		7 若芽			7 青森					7 松島			
		8 戸山			8 青森南					8 いずみ			
		9 青森東こども園			9 青森工業					9 南			
		10 あかしや			10 青森山田		つがる市		1 いなほ	1 柏	1 森田	1 木造	
		11 しらゆり			11 浪岡				2 菰植	2 穂波	2 車力		
		12 こども園瑞穂			12 北斗				3 しげた				
		13 合浦			13 青森商業				4 もりた				
		14 ゆうゆうきっず青森							5 かしわこども園				
		15 青森甲田こども園							6 かしわあつふるこども園				
		16 青森山田こども園					鯨ヶ沢町			1 西海			
		17 青森認定こども園											
		18 戸山分園クレヨン館											
		19 おおぼし保育園					深浦町		1 みはる	1 いわさき	1 大戸瀬		
									2 みよし	2 修道			
									3 えの木				
平内町	1 山彦	1 東和	1 山口				板柳町			1 板柳北			
		2 小湊	2 小湊										
		3 口広	3 東										
		4 山彦					中泊町	1 中里こども園		1 小泊			
		5 青空											
外ヶ浜町	1 風のまちこども園			1 三厩									
				2 蟹田			鶴田町						
今別町		1 今別こども園							1 水元				
蓬田村		1 蓬田	1 蓬田										
校種別計	8	26	9	8	13	1	校種別計	2	11	16	5	3	0
地区合計	65						地区合計	37					

中弘南黒地区							上十三地区						
市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援	市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援
弘前市		1 高杉	1 石川	1 石川	1 弘前中央	1 弘前第一養護	十和田市	1 さつき	1 十和田めぐみ	1 藤坂		1 三本木農業	
		2 やまぶき	2 東目屋	2 津軽	2 東奥義塾				2 きく	2 高清水			
		3 青女子	3 第三大成	3 新和	3 弘前実業				3 緑と太陽				
		4 大開	4 三省	4 第一	4 弘前工業				4 みきの				
		5 ふじこども園	5 東	5 第二	5 柴田学園								
		6 弘前すみれ	6 文京	6 第三	6 弘前南								
		7 こどもの城	7 城東	7 第四	7 弘前		三沢市	1 いちい	1 チャリティー第1	1 三川目			
		8 城東	8 致遠	8 第五	8 弘前東				2 チャリティー第2				
		9 ふたば	9 新和	9 裾野			野辺地町					1 野辺地	
		10 サンこども園	10 小沢	10 相馬									
			11 大和沢	11 北辰			七戸町		1 榎林こども園			1 七戸	
			12 豊田	12 南					2 道ノ上こども園				
			13 大成										
			14 朝陽				おいらせ町		1 錦ヶ丘				
			15 北						2 あゆみ				
			16 福村						3 川口				
			17 こどもの館						4 下田こども園				
			18 子供の城						5 本村こども園				
			19 桔梗野						6 深沢				
			20 西				六戸町		1 ひのでこども	1 開知	1 七百		
			21 青柳						2 こども園おひさま				
			22 岩木				東北町	横浜町					
			23 自得						1 中央ポブラ				
			24 和徳						2 水喰				
									3 ポブラ				
									4 乙供文化				
西目屋村			1 西目屋				六ヶ所村		1 千歳平こども園	1 千歳平		1 六ヶ所	
黒石市		1 中郷こども園			1 黒石				2 泊こども園				
		2 美郷こども園											
平川市		1 大坊こども園		1 平賀西									
		2 平賀あすなろ											
藤崎町			1 常盤	1 藤崎									
			2 藤崎	2 明德									
			3 藤崎中央										
大鰐町	1 おおわに文化												
田舎館村			1 田舎館										
校種別計	1	14	29	15	9	1	校種別計	2	22	5	1	4	0
地区合計			69				地区合計			34			

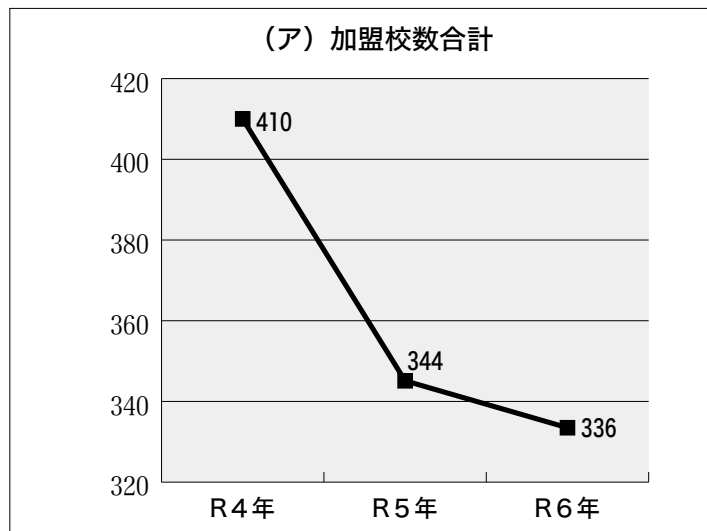
むつ下北地区							三八地区						
市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援	市町村名	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援
むつ市	1 あたご	1 エビナ	1 脇野沢	1 脇野沢	1 むつ工業		八戸市	1 旭ヶ丘	1 城下	26 南売市	1 多賀	1 北稜	1 千葉学園
	2 むつひまわり	2 大畑中央	2 関根		2 田名部			2 かもめ	2 こざくら	27 おおくきこども園	2 吹上		2 八戸東
	3 星美	3 柳町ひまわり	3 奥内		3 大湊			3 こもれびの森	3 浜市川	28 ひまわり	3 新井田		3 八戸西
		4 小川第二百合	4 大畑					4 高館	4 轟木	29 こどもの城	4 島守		4 八戸商業
		5 よしの						5 長者	5 さめ	30 白山台	5 桔梗野		5 八戸
		6 大平						6 マリアンハウス	6 桔梗野	31 うぐいす	6 白銀		6 八戸工業
		7 近川						7 八戸学院	7 すみれ	32 太陽と海の子			7 八工大一高
		8 並木						8 第二しのめ	8 テレジア	33 下長こども園			8 向陵
		9 白百合						9 聖アンナ	9 いちのさわ	34 しみず			9 八戸学院光星
		10 ゆきのこ							10 岬台	35 白鷗			
		11 海の子							11 多賀台	36 類家			
		12 あすなろ							12 大杉平	37 桐の葉			
		13 苦生ひまわり							13 中居林こども園	38 明星こども園			
大間町	1 大間	1 うみの子	1 奥戸	1 大間					14 虹の丘	39 サンフラワー			
		2 大間	2 大間						15 三条	40 むつみ			
東通村			1 東通	1 東通					16 みどりのかげエドムカレ	41 ほうりん			
風間浦村		1 風間浦							17 エンゼル子どもの家	42 貴福			
佐井村		1 佐井村	1 佐井	1 佐井					18 尻内	43 是川			
			2 牛滝						19 根城こども園	44 こぼと			
									20 木の実園	45 旭ヶ丘			
									21 三島	46 小久保			
									22 すぎのこ	47 第二さえずりの森			
									23 みどりのかげ北ウイング				
									24 湊				
									25 藤覚				
							三戸町		1 ミューズ				
							五戸町	1 江渡	1 めぐみ		1 五戸	1 五戸	
											2 上市川	2 倉石	
											3 倉石		
							田子町	1 田子			1 田子	1 田子	
							南部町	1 あかね	1 福地			1 南部	
												2 福地	
												3 名川	
							階上町		1 石鉢		1 階上	1 階上	
									2 階上		2 赤保内		
									3 道仏				
							新郷村						
校種別計	4	17	9	4	3	0	校種別計	12	53	12	8	9	0
地区合計	37						地区合計	94					

県 計	幼稚園	保育園（所）	小学校	中学校	高等学校	特別支援
令和6年度末計	29	143	80	41	41	2
総 計	336	※令和5年度末加盟校数 344校 △8校				

④ 青少年赤十字加盟登録状況の推移

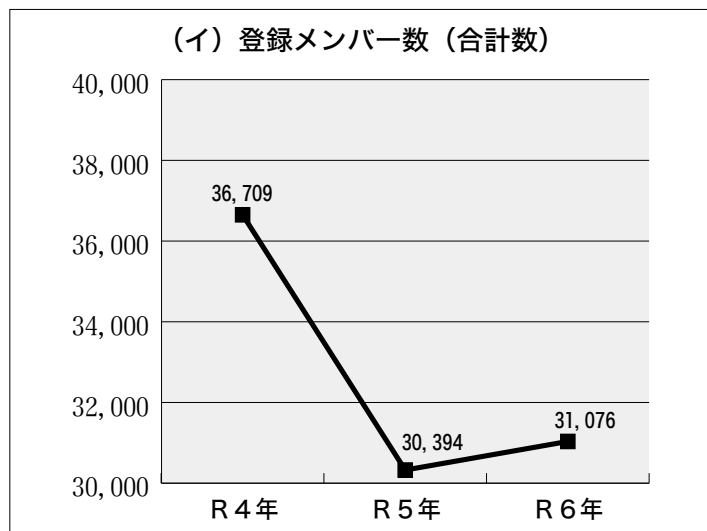
(ア) 加盟校数合計

年度	学校数
R 6 年	336
R 5 年	344
R 4 年	410



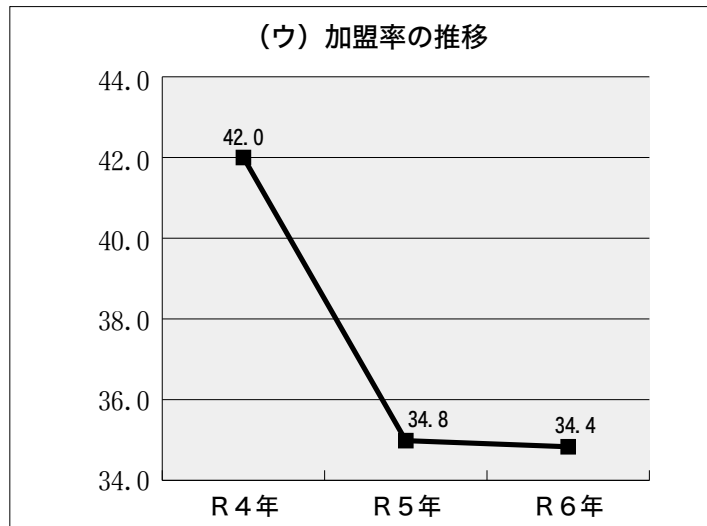
(イ) 登録メンバー数合計

年度	登録メンバー数
R 6 年	31,076
R 5 年	30,394
R 4 年	36,709



(ウ) 加盟率の推移 ※幼保を除く

年度	加盟率
R 6 年	34.4
R 5 年	34.8
R 4 年	42.0



(2) 青少年赤十字関連研修会・会議開催状況

① 本社主催研修会・会議

名 称	開催月日	開催場所	参 加 者
リーダーシップ・ トレーニングセンター 指導者養成講習会	5月31日(金) ～ 6月2日(日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	指導者1名
全国指導者協議会 総会・研修会	7月12日(金)	日本赤十字社本社	指導者1名
全国賛助奉仕団協議会	7月11日(木) ～ 7月12日(金)	日本赤十字社本社	賛助奉仕団委員長1名
青少年赤十字中央講習会	11月4日(月)	日本赤十字社本社	指導者1名
青少年赤十字研究会	1月10日(金)	日本赤十字社本社	指導主事1名
スタディー・センター	3月22日(土) ～ 3月26日(水)	東照館	高校生メンバー2名

② ブロック（担当支部）主催研修会・会議

名 称	開催月日	担当支部	参 加 者
第1B支部管内高等学校 青少年赤十字交流会	9月28日(土) ～ 9月29日(日)	福島県支部	高校生メンバー3名 指導者2名 指導講師1名
第1B賛助奉仕団協議会	10月30日(水) ～ 10月31日(木)	宮城県支部	賛助奉仕団委員長1名
第1B指導者研究会	11月21日(木) ～ 11月22日(金)	北海道支部	指導者1名

③ 支部主催研修会・会議

名 称	開催月日	開催場所 (開催形式等)	参 加 者
指導講師会議	4月17日(水)	日本赤十字社 青森県支部	青少年赤十字指導講師11名
県指導者協議会理事会・ 指導主事等対象研修会	7月10日(水)	日本赤十字社 青森県支部	県青少年赤十字指導者協議会役員 指導主事
青少年赤十字高校 リーダーシップ・ トレーニング・センター	8月8日(木) ～ 8月10日(土)	公立小川原湖 青年の家	高校生メンバー30名参加 指導者養成2名参加 指導スタッフ4名参加
青少年赤十字高校 リーダー研修会	1月7日(火) ～ 1月9日(木)	県立梵珠 少年自然の家	高校生メンバー14名参加 アシスタントメンバー6名参加 指導スタッフ6名参加
青少年赤十字メンバー 未来を創るプロジェクト	3月14日(金)	日本赤十字社 青森県支部	大学生3名 指導者1名 支部職員2名

④ 関係機関・団体の行事

名 称	開催月日	開催場所	参 加 者
県賛助奉仕団総会	5月31日(金)	日本赤十字社青森県支部	県賛助奉仕団員
高総文青少年赤十字 部門大会（東青・下北大会）	10月19日(土)	県立青森中央高等学校	支部職員5名 赤十字救急法指導員

(3) 令和6年度青森県青少年赤十字指導者協議会役員

役 職 名	氏 名	所 属 校（施 設）
会 長	三 上 菜穂子	十和田市立藤坂小学校長
副会長（幼・保）	笹 原 芳 彦	並木保育園長
副 会 長（小）	浅 利 徳 之	青森市立本郷小学校長
副 会 長（中）	横 山 晴 彦	弘前市立第一中学校長
副 会 長（高）	鈴 木 崇	県立八戸中央高等学校長

(4) 令和6年度青少年赤十字指導講師

担当地区	氏 名	
東 青 地 区	石 村 光 也	工 藤 耕 弘
西 北 五 地 区	近 藤 徹	鶴 賀 一 昭
中弘南黒地区	田 中 均	多 田 健 司
上 十 三 地 区	丸 井 英 子	川 崎 守
むつ下北地区	沢 田 要 一	中 村 聡
三 八 地 区	中 村 正	
高等学校担当	瀧 本 ひろみ	

令和6年度 青森県青少年赤十字指導者協議会役員一覧

県役員	事 項／地 区		東 青		西 北 五		中 弘 南 黒		上 十 三		む っ 下 北		三 八	
	所 属／氏 名		氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属
<div>会長・三上菜穂子</div> <div>副会長・笹原 芳彦</div> <div>浅利 徳之</div> <div>横山 晴彦</div> <div>鈴木 崇</div>	理 事	会 長	浅利 徳幸	本郷小	小島 史靖	修道小	横山 晴彦	弘前第一中	三上菜穂子	藤坂小	山本 敦	佐井小	久保 慶喜	島守小
		副 会 長	虻名 将之 木立 啓司 袴田 康夫 三浦 真	あおりみなみこども園 小湊小 東中 青森北高	坂崎 博之 三浦 博明 (なし) 三上 保	みはる保 五所川原南小 木造高	齋藤千都子 山口安祈子 棟方 仁人 對馬 嘉晴	弘前すみれ保 和徳小 明徳中 弘前実業高	羽立 俊士 山本 治 松木 信嘉 高橋美和子	チャリティー第二 清水小 七百中 七戸高	笹原 芳彦 高杉 洋子 工藤 秀吾 千葉 栄美	並木保 奥内小 佐井中 田名部高	小澤 一雅 川村 洋 中村 雅人 矢部 広明	すみれ保 吹上小 多賀小 八戸東高
	専 門 委 員	幼 児 部 会	小泉 隆人 蝦名 崇子	幸畑保 山彦幼	坂崎 博之	みはる保	下山 京子 工藤百合子	高杉保 青女子保			笹原 芳彦 中野 正子 吉田沙恵子 斉藤 典子	並木保 並木保 ゆきのこ保 エビナ保	田頭 正嗣 須川真也子 工藤裕美子	高館幼 テレジア保 エンゼル子どもの家保
		小 学 校 部 会	富士 竜也 中屋久美子 浅利 徳幸	浪岡南小 山口小 本郷小	松山 伸 小山内祥子 外崎 淳郎	板柳南小 鶴田小 小阿弥小	中野 正寛 中村 康 越谷かおり	青柳小 田舎館小 和徳小	渡辺 浩美 三浦 丈 工藤 美栄	清水小 三川目小 開知小	高杉 洋子 奥本香奈子 坂本 尚美 古川 弘基	奥内小 佐井小 関根小 正津川小	須藤有祐美	島守小
		中 学 校 部 会	山田 大介 目時 聖児 木村 文俊 三橋 信子 葛西 富生	筒井中 三厩中 浪岡中 戸山中 北中	(なし)		松山 裕 神 浩彦 角田奈央子 石岡 卓彦	弘前第二中 弘前第一中 津軽中 弘前第四中	松木 信嘉	七百中	工藤 秀吾 西村 一牧 対馬 皓大 田中めぐみ	佐井中 佐井中 東通中 脇野沢中	鈴木小百合	倉石中
		高 校 部 会	平山しのぶ 葛原 香織 石塚 智美 安江 道子	青森中央高 青森山田高 東奥学園高 青森東高	外崎 恵子 鈴木 則子	木造高 木造高	三戸 美英 島村 千景 水木 禎人	弘前工業高 弘前実業高 弘前中央高	上篠 洋子 玉館香奈子 戸米 温	三本木農業恵拓高 七戸高 六ヶ所高	千葉 栄美 南 一彦 傳法 宏美 小原 舞子	田名部高 田名部高 むつ工業高 大湊高	秋山 統子	八工大第一
	地 区 指 導 者	事 務 局 長	和田可矢毅	本郷小	小島 史靖	修道小	神 浩彦	弘前第一中	三沢 正幸	藤坂小	奥本香奈子	佐井小	田名部純一	島守小
		局 員	川村 浩	本郷小			間山 克朗	弘前第一中	野坂 洋一 野崎宇多子 東 たい子	藤坂小 藤坂小 藤坂小	南 一彦 中野 正子	田名部高 並木保	鈴木小百合 船渡 寿子	倉石中 道仏小
	地 区 事 務 局 児 童	部 会 長	虻名 将之	あおりみなみこども園	坂崎 博之	みはる保	湯瀬 高央	美郷こども	羽立 俊士	チャリティー第二	笹原 芳彦	並木保	原田 輝子	みどりのかぜ北ウイング
		事 務 局 長	鎌田 昭子	青森甲田こども園	小山内真紀子	みはる保	浅利 香織	青女子保	加藤 桂	チャリティー第二	中野 正子	並木保	前田 陽子	すみれ保
		事 務 局 員	我妻真智子	青森甲田こども園										
	地 区 事 務 局 校	部 会 長	三浦 真	青森北高	三上 保	木造高	島村 千景	弘前実業高	高橋美和子	七戸高	千葉 栄美	田名部高	家口 美輝	八戸東高
		事 務 局 長	山口 誓子	青森北高	外崎 恵子	木造高			藤田 共章	七戸高	南 一彦	田名部高	天坂 美幸	八戸工業高
		局 員	千葉多恵子	青森北高	鈴木 則子	木造高			玉館香奈子	七戸高				
	指 導 講 師		石村 光也		近藤 徹		田中 均	瀧本ひろみ	丸井 英子		沢田 要一		中村 正	
			工藤 耕弘		鶴賀 一昭		多田 健司	(高校)	川崎 守		中村 聡			



6. 国 際 活 動

日本赤十字社は、スイスのジュネーブにある赤十字国際委員会・赤新月社連盟を中心に世界191の国と地域の赤十字・赤新月社と連携しながら、開発途上国の援助や飢餓・紛争や自然災害等で苦しんでいる人々に援助の手を差し伸べるとともに、国際親善の強化に努めている。

国際赤十字・赤新月社連盟は、大規模災害発生に備え、ERU（緊急対応ユニット）を配備しており、日本赤十字社では基礎保健型ERUを保有し、国際的な救援要請に応える準備を整えている。当支部管内ではERU要員1名を有している。

（1）国際援助活動

① NHK海外たすけあい（第42回）

窓 口 区 分		取扱件数（件）	取扱金額（円）
支 部 扱 い	支部管内取扱	89	693,388
	NHK各放送局	1	1,200
	地方銀行	22	117,018
	JF（県信漁連）	1	10,000
合 計		113	821,606

② 海外救援金受付状況

救 援 金 名	取扱件数（件）	取扱金額（円）
中東人道危機救援金	2	732
バングラデシュ南部避難民救援金	2	916
アフガニスタン人道危機救援金	23	26,515
ウクライナ人道危機救援金	40	733,475
イスラエル・ガザ人道危機救援金	36	33,933
2024年台湾東部沖地震救援金	57	1,160,969
レバノン人道危機救援金	20	60,939
合 計	180	2,017,479

(2) 国際協力事業

○救急法普及支援事業

ラオス赤十字社が行う救急法普及事業に対して、財政支援や資機材整備支援等をはじめ、指導者のスキルアップのための技術指導の支援等を実施している。

令和6年度は、ラオス赤十字社への救急法に関する技術支援を行うことを目的として、当支部職員を1名派遣した。



心肺蘇生指導の様子



体位変換指導の様子

○青少年赤十字海外支援事業

バヌアツ赤十字社支援事業として、災害に対し脆弱な同国支援のため、子どもたちの防災意識の向上、学校における災害リスクの軽減を目的に防災教育事業及びボランティアのネットワーク強化などへの支援を実施している。

○気候変動等レジリエンス強化事業

ルワンダ赤十字社と連携し、気候変動の影響と考えられる災害、感染症や貧困などの社会課題に対し、住民が課題に取り組む「モデルビレッジアプローチ」を普及させ、レジリエンスを強化させるため、財政支援を実施している。

○気候変動対策事業

アフガニスタン赤新月社が主体となって行う、気候変動による自然災害へ対応するための「村落や学校での防災・減災活動」、「生活支援活動」に対し、財政支援を実施している。

◎国際協力事業に対する令和6年度の拠出額は次のとおりである。

第1ブロック各支部拠出金総額	6,000,000円
内、当支部負担額	662,000円

(3) 三沢米軍基地内アメリカ赤十字社との連携

三沢米軍基地内にあるアメリカ赤十字社三沢基地支部と連携し、相互事業への協力を行っている。



7. 社会福祉事業

○青森県支部受託青森県立はまなす医療療育センター

① 概 要

児童福祉法第42条第2号及び第43条第2号に規定されている医療型障害児入所施設及び医療型児童発達支援センター並びに障害者総合支援法第5条第6項、第5条第7項及び第5条第8項に規定されている療養介護、生活介護及び短期入所の運営業務を青森県より委託を受け、また、医療法に規定する病院としての機能による小児リハビリテーションを中心に、小児整形外科疾患や障がい児の小児科治療を主として行っている。

(ア)医療型障害児入所施設 肢体不自由42床 重症心身障害40床

肢体不自由児及び重症心身障がい児を入所させて、保護、日常生活の指導、独立自活に必要な知識技能の付与及び治療を行っている。

(イ)医療型児童発達支援センター 40名

肢体不自由児及び重症心身障がい児を通わせて、日常生活における基本的動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与及び集団生活への適応のための訓練並びに治療を行っている。地域支援として、保育所等訪問支援、障害児相談支援及び計画相談支援の事業を行っている。

(ウ)療養介護 肢体不自由42床 重症心身障害40床

障がい者を入所させて、機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び日常生活上の世話並びに供与を行っている。

(エ)生活介護 20名

障がい者を通わせて、入浴、排せつ及び食事の介護、創作的活動及び生産活動の機会の提供等の便宜を供与している。

(オ)短期入所（空床型）

障がい者等を短期間入所させて、入浴、排せつ及び食事の介護等の便宜を供与している。

(カ)外来診療

乳幼児の運動発達診察や小児整形外科疾患の診察と治療、そして、障がい児の小児診療を行っている。

(キ)療育相談

各市町村及び県南・むつ市の3保健所とともに障がい児の早期発見のために、赤ちゃんの運動発達相談を行い、また、必要により在宅の障がい児(者)の家庭訪問を行っている。

② 年間利用児（者）延数及び外来患者数

(ア)医療型障害児入所施設・療養介護（肢体）	延	10,332人（1日平均 28.3人）
(イ)医療型障害児入所施設・療養介護（重心）	延	9,001人（1日平均 24.7人）
(ウ)医療型児童発達支援センター	延	1,373人（1日平均 5.7人）
(エ)短期入所	延	299人（1日平均 0.8人）
(オ)生活介護	延	972人（1日平均 4.0人）
(カ)外来患者数	延	10,683人（1日平均 44.1人）

③ 医療社会活動

活 動 内 容	派 遣 先	日数又は件数	派遣人員 (のべ人数)
療 育 相 談	上十三保健所	12日	12
	むつ保健所	3日	3
在宅重度身体障害者 訪問診療	三 沢 市	2件	6
	八 戸 市	3件	9
小・中学校脊椎側彎症等 運動器学校検診	八 戸 市	17日	17



医療的ケア児等支援普及啓発イベント
「Let's Enjoy!」想造フェスティバル」
令和6年9月15日



夏祭り 令和6年8月29日



8. 医 療 事 業

○八戸赤十字病院

八戸赤十字病院は、赤十字の理念や赤十字思想の実践を通じ、八戸市救急医療施設病院群輪番制病院（救急告示病院）、地域医療支援病院、地域災害拠点病院として地域の救急医療、質の高い医療、災害救護に取り組んでいる。

令和6年度は、地域災害拠点病院としての要件にもある止水・防水・内水氾濫対策、そしてそれに伴うBCPの見直しなど、防火・防災・災害対策委員会を中心に対策を講じた。

経営状況は、前年度の決算書データから本社による経営改善が必要な施設と判断された結果、新たに「グループ支援病院」の指定を受け、経営に対するガバナンスの強化が求められた一年となった。令和6年度は診療報酬改定があり、表向きはプラス改定が謳われていたものの診療報酬の算定区分変更による点数引き下げや加算要件の見直しにより、実質的にはマイナス改定とも言える内容であった。

また、前年度に続き精神科病棟を休止したことやエネルギー関連費用の高騰や物価上昇による費用の増加もあり、当初は収支改善を計画的に進めることは難しい状況であったが、期中を通じて入院患者の確保・上乗せと診療報酬加算の上位基準取得などに鋭意取り組んだことで、医業収支は赤字となったものの総収支は黒字となった。

良質な急性期医療の提供と地域医療の確保と災害に強い医療機関を目指し、健全な経営を維持し、地域の皆様の生命と健康を守るため、赤十字の理念に基づいた信頼される医療を実践し、「あなたの病院、わたしの病院、そして、私たちの病院」として、誇れる病院づくりに最善を尽くしていかなければならないと考えている。

① 許可病床数及び入院基本料

一般病床 374床 急性期一般入院料1（7対1）

精神病床 38床 休床

② 診療科目（標榜診療科）

消化器内科、糖尿病代謝内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、膠原病内科、血液内科、精神科、脳神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科

③ 年間取扱患者数

ア．入院患者 113,771人（一日平均 311.7人 前年度比 +3.7人）

イ．外来患者 145,039人（一日平均 599.3人 前年度比 △5.2人）

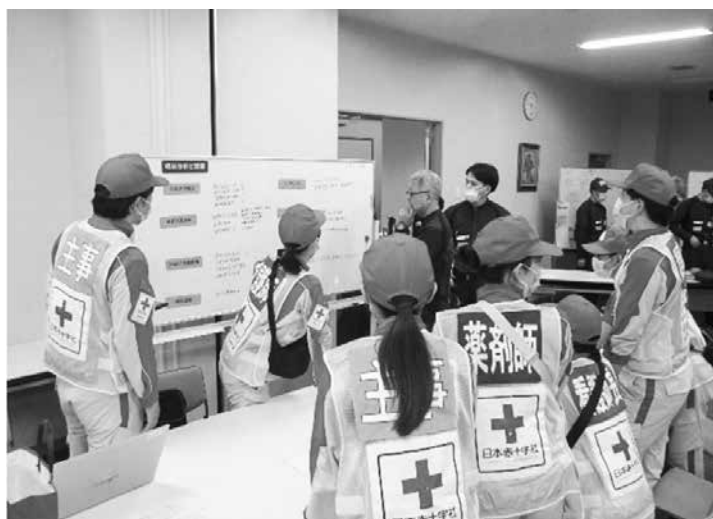
④ 病院における医療社会活動

一般診療の他に、年間に院内外において行った医療社会活動の状況は、次表のとおりであった。

令和6年度活動	開催日数	開催箇所数	対象者数	従事者数		
				職 員	その他	計
母 親 学 級	13	1	59	32	0	32
栄 養 相 談	336(回)	1	5,288	1,207	0	1,207
各 種 検 診	47	2	2,398	47	0	47
患 者 慰 安	0	0	0	0	0	0
健 康 生 活 支 援 講 習 会	0	0	0	0	0	0
心 肺 蘇 生 ・ A E D 講 習 会	7	7	220	12	0	12
訪 問 看 護	0	0	0	0	0	0
育 児 相 談	50	1	565	300	0	300
保 健 指 導	0	0	0	0	0	0



八戸市総合防災訓練 令和6年10月26日



青森県総合防災訓練 令和6年10月30日



9. 血 液 事 業

○青森県赤十字血液センター

青森県赤十字血液センターでは本社事業運営の基本方針に則り「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び関係法令を遵守し、採血事業者及び医薬品販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な事業を遂行している。

令和6年度においても年間を通じ、医療機関の需要に見合った血液を安定的に確保するとともに、少子高齢化に伴い献血可能人口が減少する中、将来にわたり血液製剤を安定供給する体制に向けた対策を継続して実施してきた。10代から30代の若年層に対しては、国が策定する中期目標「献血推進2025」を踏まえ、全国で効果のあった具体的な増加策を取り入れる等、大学生・高校生に対して献血者の増加につながる積極的な取り組みを展開した。

令和6年度の献血受け入れ計画は、県内医療機関で使用する輸血用血液の需要予測に基づき、必要とする血液製剤を過不足なく安定的に供給するため、献血者数44,499人、目標量19,514.7Lと目標設定した。

これらの目標量を確保するため、青森県赤十字血液センターでは成分献血及び400mL献血の推進に主眼をおき、地方公共団体等の協力のもと、献血者の年齢層に応じた献血推進はもとより、幼少期を含めた若年層、企業や団体等を普及啓発の対象として効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに、複数回献血者の一層の増加を図り、更には健康的な高年齢層献血者の受け入れを積極的に実施した。

具体的には各種キャンペーンの展開、献血セミナーの実施、広報媒体及び学生献血ボランティア等の活用、新規事業所の開拓等を行い、献血者の確保に努めた。

青森県赤十字血液センターは、血液法の理念である、より安全な血液製剤をより安定的に医療機関へ供給する体制を目指して、より一層の努力を続けていかなければならないと考えている。

令和6年度事業概要

(1) 献血状況

献血者数は45,073人で、前年度に比較すると2,020人の減となり、対前年比では95.7%となった。(令和5年度の献血者は47,093人)

献血量は19,748.9Lで、前年度に比較すると842.7Lの減となり、対前年比では95.9%となった。(令和5年度の献血量は20,591.6L)

(2) 供給状況

県内医療機関（病院等）への血液製剤供給本数は、200mL換算で191,162単位となり、前年度に比較すると2,389単位の減、対前年比では98.8%となった。(令和5年度の供給本数は193,551単位)

(3) 令和6年度 月別施設別献血状況

① 令和6年度月別施設別献血状況（4月～3月）

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
青森バス	2 0 0 mL	34	16	8	61	12	30	103	51	7	63	22	8	415
	4 0 0 mL	1,527	1,388	1,284	1,403	1,368	1,353	1,343	1,356	1,429	1,404	1,248	1,322	16,425
	計	1,561	1,404	1,292	1,464	1,380	1,383	1,446	1,407	1,436	1,467	1,270	1,330	16,840
	確保量(L)	617.6	558.4	515.2	573.4	549.6	547.2	557.8	552.6	573.0	574.2	503.6	530.4	6,653.0
	稼働日数	40	38	35	38	36	37	40	39	39	40	35	37	454
一台平均		39.0	36.9	36.9	38.5	38.3	37.4	36.2	36.1	36.8	36.7	36.3	35.9	37.1
八戸バス	2 0 0 mL	5	4	14	65	3	67	36	59	31	4	6	5	299
	4 0 0 mL	690	617	638	649	648	565	669	665	652	696	577	643	7,709
	計	695	621	652	714	651	632	705	724	683	700	583	648	8,008
	確保量(L)	277.0	247.6	258.0	272.6	259.8	239.4	274.8	277.8	267.0	279.2	232.0	258.2	3,143.4
	稼働日数	16	16	16	16	15	15	16	16	16	17	14	16	189
一台平均		43.4	38.8	40.8	44.6	43.4	42.1	44.1	45.3	42.7	41.2	41.6	40.5	42.4
全血バス合計	2 0 0 mL	39	20	22	126	15	97	139	110	38	67	28	13	714
	4 0 0 mL	2,217	2,005	1,922	2,052	2,016	1,918	2,012	2,021	2,081	2,100	1,825	1,965	24,134
	計	2,256	2,025	1,944	2,178	2,031	2,015	2,151	2,131	2,119	2,167	1,853	1,978	24,848
	確保量(L)	894.6	806.0	773.2	846.0	809.4	786.6	832.6	830.4	840.0	853.4	735.6	788.6	9,796.4
	稼働日数	56	54	51	54	51	52	56	55	55	57	49	53	643
一台平均		40.3	37.5	38.1	40.3	39.8	38.8	38.4	38.7	38.5	38.0	37.8	37.3	38.6
青森ルートム	2 0 0 mL	17	5	7	11	4	5	11	7	6	6	10	16	105
	4 0 0 mL	242	295	292	307	327	315	300	281	297	278	313	373	3,620
	血 漿	320	336	290	272	318	282	265	261	244	244	263	291	3,386
	血小板(分割)	84	113	120	110	106	115	126	118	122	128	117	136	1,395
	血小板(分割以外)	70	97	82	81	83	88	89	93	93	83	69	84	1,012
	計	733	846	791	781	838	805	791	760	762	739	772	900	9,518
	確保量(L)	365.4	424.1	393.9	384.2	415.3	398.4	391.0	377.7	376.7	367.5	379.4	439.2	4,712.9
	稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	27	25	27	314
一日平均		29.3	31.3	30.4	30.0	31.0	31.0	30.4	29.2	29.3	27.4	30.9	33.3	30.3
弘前ルートム	2 0 0 mL	21	22	29	21	14	19	18	10	20	15	30	25	244
	4 0 0 mL	299	337	397	311	350	351	327	355	363	269	377	453	4,189
	血 漿	267	312	313	300	303	277	283	270	249	235	302	321	3,432
	血小板(分割)	140	145	144	122	155	138	145	142	144	137	131	143	1,686
	血小板(分割以外)	84	102	72	109	102	75	93	108	92	106	100	113	1,156
	計	811	918	955	863	924	860	866	885	868	762	940	1,055	10,707
	確保量(L)	399.5	452.3	462.3	425.0	456.7	419.7	426.6	434.8	421.2	377.8	455.0	508.8	5,239.6
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	30	31	28	31	364
一日平均		27.0	29.6	31.8	27.8	29.8	28.7	27.9	29.5	28.9	24.6	33.6	34.0	29.4
合計	2 0 0 mL	77	47	58	158	33	121	168	127	64	88	68	54	1,063
	4 0 0 mL	2,758	2,637	2,611	2,670	2,693	2,584	2,639	2,657	2,741	2,647	2,515	2,791	31,943
	血 漿	587	648	603	572	621	559	548	531	493	479	565	612	6,818
	血小板(分割)	224	258	264	232	261	253	271	260	266	265	248	279	3,081
	血小板(分割以外)	154	199	154	190	185	163	182	201	185	189	169	197	2,168
	合 計	3,800	3,789	3,690	3,822	3,793	3,680	3,808	3,776	3,749	3,668	3,565	3,933	45,073
	確保量(L)	1,659.5	1,682.4	1,629.5	1,655.2	1,681.5	1,604.7	1,650.2	1,642.9	1,637.9	1,598.7	1,569.9	1,736.6	19,748.9
	稼働日数	111	112	107	111	109	108	113	111	111	115	102	111	1,321
一日平均		34.2	33.8	34.5	34.4	34.8	34.1	33.7	34.0	33.8	31.9	35.0	35.4	34.1
	初回献血者数(人)	268	253	232	266	144	274	326	255	195	190	174	183	2,760
	再来献血者数(人)	3,532	3,536	3,458	3,556	3,649	3,406	3,482	3,521	3,554	3,478	3,391	3,750	42,313
	初回献血率(%)	7.1	6.7	6.3	7.0	3.8	7.4	8.6	6.8	5.2	5.2	4.9	4.7	6.1

② 年齢別献血者数推移調

(人)

区 分	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
16 ～ 19 歳	1,346	1,496	2,842	1,391	1,387	2,778	1,243	1,204	2,447
20 ～ 29 歳	3,857	2,544	6,401	3,753	2,469	6,222	3,443	2,287	5,730
30 ～ 39 歳	4,996	2,389	7,385	4,948	2,291	7,239	4,571	2,070	6,641
40 ～ 49 歳	8,205	3,384	11,589	8,066	3,370	11,436	7,373	3,087	10,460
50 ～ 59 歳	9,279	3,745	13,024	9,439	3,827	13,266	9,549	3,892	13,441
60 ～ 69 歳	4,435	1,451	5,886	4,721	1,431	6,152	4,858	1,496	6,354
計	32,118	15,009	47,127	32,318	14,775	47,093	31,037	14,036	45,073

③ 年齢別献血者構成比率及び前年度比調

区 分	構成比率(%)	前年比(%)	前年増減(人)
16 ～ 19 歳	5.4	88.1	▲ 331
20 ～ 29 歳	12.7	92.1	▲ 492
30 ～ 39 歳	14.7	91.7	▲ 598
40 ～ 49 歳	23.2	91.5	▲ 976
50 ～ 59 歳	29.8	101.3	175
60 ～ 69 歳	14.1	103.3	202
計	100.0	95.7	▲ 2,020

④ 職業別献血者推移調

(人)

区 分	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
公 務 員	8,783	1,800	10,583	8,906	1,780	10,686	8,736	1,880	10,616
会 社 員	16,462	6,082	22,544	16,754	6,133	22,887	16,019	5,872	21,891
高 校 生	746	936	1,682	735	841	1,576	701	768	1,469
その他学生	1,301	1,360	2,661	1,282	1,355	2,637	1,105	1,195	2,300
そ の 他	4,826	4,831	9,657	4,641	4,666	9,307	4,476	4,321	8,797
計	32,118	15,009	47,127	32,318	14,775	47,093	31,037	14,036	45,073

(4) 令和3年・4年・5年・6年度月別血液供給数

(200mL換算)

月区分	令和3年度 県内供給数	令和4年度 県内供給数	令和5年度 県内供給数	令和6年度 県内供給数
4 月	17,018	15,689	16,200	15,543
5 月	15,719	16,115	16,487	15,835
6 月	16,184	14,581	15,241	14,324
7 月	16,612	16,652	15,742	15,179
8 月	15,834	15,989	17,919	16,850
9 月	15,348	15,386	17,490	14,879
10 月	15,603	14,886	17,757	17,311
11 月	16,780	14,993	15,248	15,715
12 月	17,110	17,348	15,267	16,744
1 月	16,517	16,765	14,992	17,329
2 月	14,721	16,273	14,590	15,049
3 月	16,377	18,238	16,618	16,404
合 計	193,823	192,915	193,551	191,162

※200mL換算とは、200mL献血から分離された赤血球を1単位、血漿を1単位(120mL)、400mLから分離された赤血球を2単位・血漿を2単位(240mL)、血漿成分献血を4単位(480mL)、血小板成分献血を5～20単位として計算したものである。



「令和6年度感謝の集い」青森県学生献血推進連絡会による活動報告



全国学生クリスマス献血キャンペーンに参加する学生ボランティア

(5) 多回数献血者の表彰

◎献血回数 100回以上
〈金色有功章〉

市 町 村	人 数
青 森 市	23
弘 前 市	12
む つ 市	7
三 沢 市	3
八 戸 市	3
つ がる市	2
五所川原市	2
藤 崎 町	2
中 泊 町	2
十和田市	1
板 柳 町	1
平 川 市	1
鯨ヶ沢町	1
七 戸 町	1
黒 石 市	1
深 浦 町	1
南 部 町	1
計	64

◎献血回数 70回以上
〈銀色有功章〉

市 町 村	人 数
青 森 市	37
弘 前 市	19
八 戸 市	9
平 川 市	5
五所川原市	5
黒 石 市	4
む つ 市	4
藤 崎 町	3
三 沢 市	3
十和田市	3
おいらせ町	3
田舎館村	2
田 子 町	2
野辺地町	2
鶴 田 町	2
六ヶ所村	1
つ がる市	1
板 柳 町	1
六 戸 町	1
大 間 町	1
計	108



株式会社西村組様からハートラちゃん看板のご寄贈



献血の呼びかけにご協力いただいたガールスカウト
青森県第2団及び第11団の皆様



10. 活動資金の募集状況及び会員の現況

令和6年度の会員増強・活動資金増収運動は、「救うを託されている。あなたとともに。」をスローガンに掲げ、令和6年2月1日から通年募集を行った。

なお、赤十字奉仕者による募集活動については、地域の実情を踏まえた最も効果的と思われる時期に実施するなど柔軟に対応し、支部と地区・分区が連携のもと、県民に対する赤十字運動への参画と理解浸透を図った。

令和6年度の活動資金実績は187,419,909円（目標額の101.3%）となり、昨年度に引き続き、目標額達成となった。

（1）会員増強・活動資金増収運動の主な取り組み

当支部の組織基盤となる会員（協力会員を含む）の継続した会費協力を促すため、広報資材を活用した地域住民に対する会員制度の定着、全国共通活動資金募集リーフレットの配布等による預金口座振替やクレジットカード決済等の利用促進を図ったほか、県内法人へのダイレクトメールによる会員の確保と活動資金の増収に努めた。

また、遺贈執行の円滑化や受遺団体としての知名度向上のため、地元税理士会や司法書士会といった外部の専門機関との連携を強化したほか、青森市内において終活・社会貢献セミナーを開催した。

（2）令和6年度 会員増強・活動資金増収運動の状況

① 会員等状況調

日本赤十字社は、会員等をもって組織されており、当支部では毎年2月から通年による会員増強・活動資金増収運動を展開している。当支部の会員等状況は、下表のとおりである。

（ア）会員（社法上の社員）（令和7年3月31日現在）

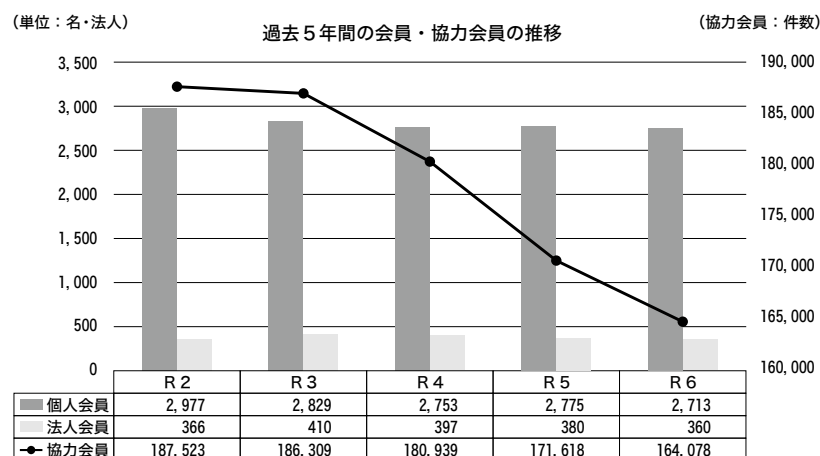
	会員数（名・法人）
個 人	2,713
法 人	360
合 計	3,073

※日本赤十字社の目的に賛同し、年額2,000円以上を納め運営に参画する個人または法人

（イ）協力会員（令和7年3月31日現在）

	協力会員件数
個人・法人	164,078

※会員以外の者であって、日本赤十字社の目的に賛同し、目安として年額500円以上を提供する個人または団体



② 募集実績額

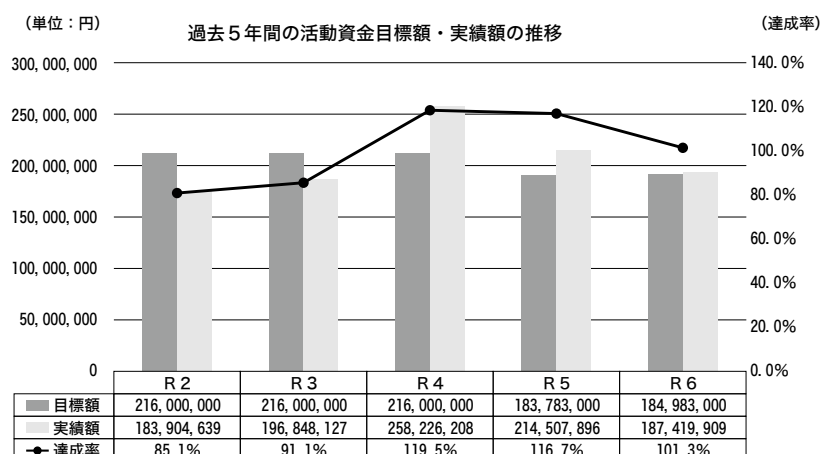
令和6年度の募集実績額は、前年度募集実績額214,507,896円に対し、前年度比で27,087,987円（12.6%）の減となった。主たる要因としては、遺贈による寄付の減が挙げられる。

《地区区分・支部別の募集実績額》

区 分		目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達成率(%)
総 額		184,983,000	187,419,909	101.3
内 訳	地 区 分 区 扱 い	140,572,000	137,119,714	97.5
	支 部 扱 い	44,411,000	50,300,195	113.3

《会費・寄付金の収入状況》

区 分		会 費 (円)	寄 付 金 (円)	合 計 (円)
総 額		126,125,605	61,294,304	187,419,909
内 訳	一 般	123,770,525	45,233,616	169,004,141
	地 区 分 区 扱 い	122,696,025	13,191,689	135,887,714
	支 部 扱 い	1,074,500	32,041,927	33,116,427
	法 人	2,355,080	16,060,688	18,415,768
	地 区 分 区 扱 い	632,000	600,000	1,232,000
	支 部 扱 い	1,723,080	15,460,688	17,183,768



③ 令和6年度 会員増強・活動資金増収運動の募集実績表

区分 地区・分區別		A目標額(円)	B実績額(円)	B/A(%)	区分 地区・分區別		A目標額(円)	B実績額(円)	B/A(%)
市 地 区	青 森 市	24,558,000	23,121,951	94.2	南 地 区	藤 崎 町	2,131,000	1,863,970	87.5
	旧青森市	22,114,000	20,766,183	93.9		大 鰐 町	1,366,000	1,150,800	84.2
	旧浪岡町	2,444,000	2,355,768	96.4		田 舎 館 村	1,234,000	1,430,850	116.0
	弘 前 市	11,930,000	11,177,499	93.7		計	4,731,000	4,445,620	94.0
	八 戸 市	20,473,000	19,155,759	93.6	北 地 区	鶴 田 町	1,963,000	1,822,400	92.8
	黒 石 市	3,171,000	2,804,000	88.4		中 泊 町	1,951,000	1,629,850	83.5
	五所川原市	6,058,000	5,701,372	94.1		計	3,914,000	3,452,250	88.2
	旧五所川原市	4,331,000	4,147,922	95.8	上 北 地 区	野 辺 地 町	1,867,000	2,107,700	112.9
	旧金木町	1,253,000	1,118,100	89.2		七 戸 町	2,674,000	2,403,850	89.9
	旧市浦村	474,000	435,350	91.8		六 戸 町	1,401,000	1,777,100	126.8
	十和田市	6,426,000	7,979,850	124.2		横 浜 町	822,000	807,000	98.2
	三 沢 市	3,921,000	4,194,325	107.0		東 北 町	2,547,000	2,339,150	91.8
	む つ 市	5,893,000	5,390,180	91.5		六ヶ所村	1,552,000	1,484,900	95.7
	旧むつ市	3,970,000	3,480,080	87.7		計	10,863,000	10,919,700	100.5
	旧川内町	663,000	762,200	115.0	下 北 地 区	大 間 町	658,000	573,000	87.1
	旧大畑町	980,000	847,800	86.5		東 通 村	1,141,000	1,004,800	88.1
	旧脇野沢	280,000	300,100	107.2		風間浦村	438,000	383,500	87.6
	つがる市	5,729,000	5,120,250	89.4		佐 井 村	501,000	493,600	98.5
	平 川 市	4,886,000	5,557,528	113.7		計	2,738,000	2,454,900	89.7
					三 戸 地 区	三 戸 町	1,902,000	2,038,050	107.2
	計	93,045,000	90,202,714	96.9		五 戸 町	2,930,000	3,496,500	119.3
東 地 区	平 内 町	2,224,000	1,929,600	86.8		田 子 町	1,032,000	969,600	94.0
	今 別 町	731,000	688,330	94.2		南 部 町	3,161,000	3,206,500	101.4
	蓬 田 村	508,000	733,000	144.3		階 上 町	2,062,000	2,010,800	97.5
	外ヶ浜町	1,456,000	1,312,300	90.1		新 郷 村	434,000	1,167,200	268.9
	計	4,919,000	4,663,230	94.8		おいらせ町	2,912,000	2,873,950	98.7
西 地 区	鰺ヶ沢町	2,050,000	1,852,600	90.4		計	14,433,000	15,762,600	109.2
	深 浦 町	1,550,000	1,137,550	73.4	支 部 直 轄 扱		44,411,000	50,300,195	113.3
	計	3,600,000	2,990,150	83.1	市 計		93,045,000	90,202,714	96.9
中 地 区	西目屋村	315,000	398,000	126.3	町 村 合 計		47,527,000	46,917,000	98.7
	板 柳 町	2,014,000	1,830,550	90.9	市 町 村 合 計		140,572,000	137,119,714	97.5
	計	2,329,000	2,228,550	95.7	合 計		184,983,000	187,419,909	101.3

④ 令和6年度 会員増強・活動資金増収運動の募集実績額対前年度比較表

区分 地区・分區別		令和6年度		B / A 目標額 達成率	C 令和5年度 実績額(円)	B－C 対前年度 比較増減額(円)	対前年度実績率	
		A 目標額(円)	B 実績額(円)				B / C 達成率	増減率
市地区	青森市	22,114,000	20,766,183	93.9%	19,628,818	1,137,365	105.8%	5.8%
	青森市浪岡	2,444,000	2,355,768	96.4%	2,377,257	－21,489	99.1%	－0.9%
	弘前市	11,930,000	11,177,499	93.7%	12,123,748	－946,249	92.2%	－7.8%
	八戸市	20,473,000	19,155,759	93.6%	20,331,977	－1,176,218	94.2%	－5.8%
	黒石市	3,171,000	2,804,000	88.4%	2,888,250	－84,250	97.1%	－2.9%
	五所川原市	4,331,000	4,147,922	95.8%	5,201,582	－1,053,660	79.7%	－20.3%
	五所川原市金木	1,253,000	1,118,100	89.2%	1,153,200	－35,100	97.0%	－3.0%
	五所川原市市浦	474,000	435,350	91.8%	452,200	－16,850	96.3%	－3.7%
	十和田市	6,426,000	7,979,850	124.2%	5,487,780	2,492,070	145.4%	45.4%
	三沢市	3,921,000	4,194,325	107.0%	3,874,450	319,875	108.3%	8.3%
	むつ市	3,970,000	3,480,080	87.7%	3,678,206	－198,126	94.6%	－5.4%
	むつ市川内	663,000	762,200	115.0%	578,500	183,700	131.8%	31.8%
	むつ市大畑	980,000	847,800	86.5%	868,300	－20,500	97.6%	－2.4%
	むつ市脇野沢	280,000	300,100	107.2%	296,600	3,500	101.2%	1.2%
	つがる市	5,729,000	5,120,250	89.4%	5,190,200	－69,950	98.7%	－1.3%
	平川市	4,886,000	5,557,528	113.7%	5,674,116	－116,588	97.9%	－2.1%
	計	93,045,000	90,202,714	96.9%	89,805,184	397,530	100.4%	0.4%
東地区	平内町	2,224,000	1,929,600	86.8%	1,983,100	－53,500	97.3%	－2.7%
	今別町	731,000	688,330	94.2%	647,056	41,274	106.4%	6.4%
	蓬田村	508,000	733,000	144.3%	762,000	－29,000	96.2%	－3.8%
	外ヶ浜町	1,456,000	1,312,300	90.1%	1,345,300	－33,000	97.5%	－2.5%
	計	4,919,000	4,663,230	94.8%	4,737,456	－74,226	98.4%	－1.6%
西地区	鯨ヶ沢町	2,050,000	1,852,600	90.4%	1,943,500	－90,900	95.3%	－4.7%
	深浦町	1,550,000	1,137,550	73.4%	1,279,957	－142,407	88.9%	－11.1%
	計	3,600,000	2,990,150	83.1%	3,223,457	－233,307	92.8%	－7.2%
中地区	西目屋村	315,000	398,000	126.3%	405,000	－7,000	98.3%	－1.7%
	板柳町	2,014,000	1,830,550	90.9%	1,857,100	－26,550	98.6%	－1.4%
	計	2,329,000	2,228,550	95.7%	2,262,100	－33,550	98.5%	－1.5%
南地区	藤崎町	2,131,000	1,863,970	87.5%	1,975,385	－111,415	94.4%	－5.6%
	大鰐町	1,366,000	1,150,800	84.2%	1,196,100	－45,300	96.2%	－3.8%
	田舎館村	1,234,000	1,430,850	116.0%	1,456,150	－25,300	98.3%	－1.7%
	計	4,731,000	4,445,620	94.0%	4,627,635	－182,015	96.1%	－3.9%
北地区	鶴田町	1,963,000	1,822,400	92.8%	1,832,950	－10,550	99.4%	－0.6%
	中泊町	1,951,000	1,629,850	83.5%	1,718,381	－88,531	94.8%	－5.2%
	計	3,914,000	3,452,250	88.2%	3,551,331	－99,081	97.2%	－2.8%
上北地区	野辺地町	1,867,000	2,107,700	112.9%	1,737,950	369,750	121.3%	21.3%
	七戸町	2,674,000	2,403,850	89.9%	2,473,200	－69,350	97.2%	－2.8%
	六戸町	1,401,000	1,777,100	126.8%	1,852,400	－75,300	95.9%	－4.1%
	横浜町	822,000	807,000	98.2%	815,000	－8,000	99.0%	－1.0%
	東北町	2,547,000	2,339,150	91.8%	2,375,000	－35,850	98.5%	－1.5%
	六ヶ所村	1,552,000	1,484,900	95.7%	1,676,300	－191,400	88.6%	－11.4%
	計	10,863,000	10,919,700	100.5%	10,929,850	－10,150	99.9%	－0.1%
下北地区	大間町	658,000	573,000	87.1%	578,700	－5,700	99.0%	－1.0%
	東通村	1,141,000	1,004,800	88.1%	1,050,800	－46,000	95.6%	－4.4%
	風間浦村	438,000	383,500	87.6%	390,000	－6,500	98.3%	－1.7%
	佐井村	501,000	493,600	98.5%	535,750	－42,150	92.1%	－7.9%
	計	2,738,000	2,454,900	89.7%	2,555,250	－100,350	96.1%	－3.9%
三戸地区	三戸町	1,902,000	2,038,050	107.2%	2,108,450	－70,400	96.7%	－3.3%
	五戸町	2,930,000	3,496,500	119.3%	3,535,250	－38,750	98.9%	－1.1%
	田子町	1,032,000	969,600	94.0%	988,600	－19,000	98.1%	－1.9%
	南部町	3,161,000	3,206,500	101.4%	3,270,550	－64,050	98.0%	－2.0%
	階上町	2,062,000	2,010,800	97.5%	2,014,570	－3,770	99.8%	－0.2%
	新郷村	434,000	1,167,200	268.9%	667,200	500,000	174.9%	74.9%
	おいらせ町	2,912,000	2,873,950	98.7%	2,871,801	2,149	100.1%	0.1%
	計	14,433,000	15,762,600	109.2%	15,456,421	306,179	102.0%	2.0%
支 部 直 轄		44,411,000	50,300,195	113.3%	77,359,212	－27,059,017	65.0%	－35.0%
市 計		93,045,000	90,202,714	96.9%	89,805,184	397,530	100.4%	0.4%
町 村 合 計		47,527,000	46,917,000	98.7%	47,343,500	－426,500	99.1%	－0.9%
市 町 村 合 計		140,572,000	137,119,714	97.5%	137,148,684	－28,970	100.0%	0.0%
合 計		184,983,000	187,419,909	101.3%	214,507,896	－27,087,987	87.4%	－12.6%

⑤ 令和6年度 地区区分別の募集目標額達成状況

達成率区分	市地区	東地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三戸地区	合 計	前年度との比較
150%以上							新 郷 村	1	－ 1
140%以上 150%未満		蓬 田 村						1	1
130%以上 140%未満								0	－ 1
120%以上 130%未満	十 和 田 市			西 目 屋 村	六 戸 町			3	0
110%以上 120%未満	むつ市川内 平 川 市			田 舎 館 村	野 辺 地 町		五 戸 町	5	2
100%以上 110%未満	むつ市脇野沢 三 沢 市						三 戸 町 三 南 部 町	4	－ 1
計	5	1	0	2	2	0	4	1 4	0
90%以上 100%未満	青森市浪岡 五所川原市 青 森 市 弘 前 市 八 戸 市 五所川原市市浦	今 別 町 外ヶ浜町	鶴 田 町 鰯ヶ沢町	板 柳 町	横 浜 町 六ヶ所村 東 北 町	佐 井 村	おいらせ町 階 上 町 田 子 町	1 8	－ 3
80%以上 90%未満	つがる市 五所川原市金木 黒 石 市 む つ 市 むつ市大畑	平 内 町	中 泊 町	藤 崎 町 大 鰐 町	七 戸 町	東 通 村 風 間 浦 村 大 間 町		1 3	2
70%以上 80%未満			深 浦 町					1	1
60%以上 70%未満								0	0
60%未満								0	0
計	1 1	3	4	3	4	4	3	3 2	0



11. 赤十字思想の普及と広報活動

(1) 全国赤十字大会

赤十字運動月間にあたり、会員の増強と赤十字思想の普及を図り、一層の社業進展を期するため、名誉総裁の皇后陛下をはじめ、名誉副総裁の各妃殿下がご臨席され、以下のとおり全国赤十字大会が開催された。

期 日 令和6年5月15日
場 所 東京都「明治神宮会館」
参 会 者 数 約1,600名
支 部 参 会 者 12名

支部参会者は、下表のとおり（順不同）

氏 名	役職名等	氏 名	役職名等
木 明 昭一郎	常任理事	西 村 芳 樹	救急法奉仕団委員長
岡 山 せ つ	会員・寄付者	野 呂 良 悦	奉仕団指導講師
村 下 萬	会員・寄付者	中 村 聡	青少年赤十字指導講師
沼 田 弘 子	支部評議員、赤十字奉仕団 支部委員会委員長	中野渡 正 彦	はまなす医療療育センター 事務部長
太 田 直 樹	支部評議員、佐井村分区長	神 登喜彦	支部事務局長
和 田 洋 子	赤十字有功会員	田 澤 達 也	支部総務課長



全国赤十字大会に参会された本県の赤十字関係者

(2) 活動資金功労表彰伝達式

令和6年中に、当支部に対して活動資金の支援を行った個人・法人に日本赤十字社及び国の表彰制度に基づく有功章等の伝達を行った。

期 日 令和7年3月26日

場 所 ホテル青森（青森市）

伝 達 者 日本赤十字社青森県支部 支部長 宮下 宗一郎

受章(賞)件数 41名・法人

表彰区分 功労区分		金色 有功章	銀色 有功章	社長 感謝状	厚生労働大臣 感謝状 (※)	紺綬褒章 (※)	計
社 資 功 労	個 人	1	9	7	0	0	17
	法 人	3	8	13	0	0	24
合 計		4	17	20	0	0	41

(※) 国の表彰



活動資金功労表彰伝達式に出席された受章者



伝達式で祝辞を述べる宮下支部長



支部長から感謝状が伝達される受章者

(3) 広報活動の実施状況について

① 会員、活動資金の募集運動用資材の作成・配布

1) 広報ポスター

制 作 数：4,200枚

活用内容：「道の駅」等市町村主要施設に掲出

2) 広報チラシ

制 作 数：426,000枚

仕 様：A 4、両面カラー印刷

活用内容：世帯配布、「道の駅」等市町村主要施設に設置

3) 奉仕者協力依頼状（白封筒付き）

制 作 数：12,500枚

仕 様：A 4、三つ折り、2色刷り

活用内容：自治会役員等赤十字奉仕者に配布

4) 会員・活動資金募集の手順書

制 作 数：19,600枚

仕 様：A 4、両面カラー印刷

活用内容：自治会役員等赤十字奉仕者に配布

5) 税制上の優遇措置、赤十字の表彰と表彰種別

制 作 数：22,300枚

仕 様：A 4、両面カラー印刷

活用内容：自治会役員等赤十字奉仕者に配布

6) 会員加入・寄付申込書兼領収書

制 作 数：63,000枚(252,000人分)

仕 様：B 4、両面2色刷り

活用内容：会員への加入、活動資金の納付

7) 全国共通活動資金募集リーフレット（日赤本社作成）

配 布 数：6,150部

活用内容：町内・自治会による募集が困難な地域などへの試行的な活用、管内施設やイベント等での配布

② 資材による広報活動

1) リーフレット「日本赤十字社のご案内」（日赤本社作成）

活用内容：個人・法人有功章社員等の募集、イベント等での配布

2) キャンペーン用広報ポスター（日赤本社作成）

活用内容：キャンペーン期間中に管内施設、地区分区等で掲出

3) 赤十字新聞「赤十字NEWS」（日赤本社作成）

送付回数：毎月発行

送 付 数：1回につき1,800部（ただし、9月は2,800部、12月及び3月は2,300部）

活用内容：奉仕団、青少年赤十字加盟校等関係者・関係団体に送付

4) 支部報「日赤あおもり」

発行回数：年2回発行

発 行 数：1回につき1,000部

活用内容：奉仕団、青少年赤十字加盟校等関係者・関係団体に送付



(左) 日赤あおもり410号 2024秋号

(令和6年10月31日発行)

(右) 日赤あおもり411号 2025春号

(令和7年3月14日発行)

③ メディア等による広報活動

1) ブランディングテレビCM、ラジオCM

令和7年度に開催される大阪・関西万博を前に、広く赤十字への理解関心・機運醸成づくりを図るとともに、活動資金募集を強化することを目的に、赤十字運動月間である5月に加え、「ACTION! 防災・減災」のキャンペーン期間である3月に県内の民放3局（青森放送、青森朝日放送、青森テレビ）でブランディングテレビCMを放送した。

また、赤十字運動月間である5月には、県内のエフエム局（エフエム青森）でラジオCMを放送した。

2) テレビ局におけるパブリシティ

地元テレビ局のパブリシティ枠を確保し、地域における赤十字活動の理解促進を図った。青森テレビ（ATV）10月放送

3) 新聞広告の掲載

新聞各社が企画する防災特別紙面において、日本赤十字社が展開する9月、3月の「ACTION! 防災・減災」の取り組みの一環として広告を出稿し、防災・減災の意識向上と会員増強・活動資金増収運動への理解促進を図った。

(ア) 東奥日報社 連合広告（2段1/2カラー）

(イ) 陸奥新報社 編集記事下広告（2段1/2カラー）

(ウ) デーリー東北新聞社 編集記事下広告（2段1/4モノクロ）

(エ) 日刊建設青森 特集記事下広告（3段通しモノクロ）

4) マスメディア、市町村広報紙における記事の掲載

テレビ・新聞等マスメディアへの取材依頼と市町村広報紙への記事の寄稿を依頼した。

5) ホームページ、SNSの運用

支部統合ウェブサイト（当支部ホームページ）による赤十字活動の紹介、活動資金の募集、ボランティアの加入方法等の情報を発信したほか、当支部公式SNS（X、Facebook、Instagram、YouTube）による積極的な情報発信に努めた。

④ イベントによる広報活動

1) 赤十字ふれあい推進事業

地区区分が各自治体等で開催するイベント等で、赤十字活動の広報展開を行った。

《実施状況》 1 地区・ 8 分区（ 9 事業）

分区名	事業名	実施日
五所川原市金木	金木町虫送り	6月16日
外ヶ浜町	龍飛崎海岸清掃奉仕活動	7月3日
七戸町	しちのへ夏まつり	8月16日
十和田市	新川原町内会地域密着防災訓練	9月1日
おいらせ町	生涯学習フェスティバル	10月19日～20日
横浜町	公民館まつり	10月26日～27日
田子町	田子町文化祭	11月9日～10日
東北町	東北町生き生き産業文化まつり	11月2日～3日
階上町	階上町文化祭	11月2日～3日



金木町虫送りでの赤十字コーナーの様子（五所川原市）



地域密着防災訓練での炊き出しの様子（十和田市）

2）世界赤十字デー レッドライトアッププロジェクト

5月8日の「世界赤十字デー」を中心に、全国各地のランドマークや施設が赤十字のシンボルカラーに染まる「レッドライトアッププロジェクト」を実施し、当支部では5月8日に5ヵ所の施設で実施した。

（ア）津軽ダム（国土交通省 東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所）

（イ）八戸市多賀多目的運動場（八戸スポーツ・地域振興グループ）

（ウ）むつマエダアリーナ（むつ市）

（エ）北の防人大湊 海望館（むつ市）

（オ）大橋*（むつ市） *むつ市円通寺から田名部神社方面へ向かう橋



レッドライトアップされた施設
（左から、津軽ダム、むつマエダアリーナ、北の防人大湊 海望館）

3) ACTION! 防災・減災一命のために今うごくー

社会の防災への意識が高まる9月と3月に「災害の備え」という行動(ACTION)を働き掛け、防災・減災の意識向上を図るため、「ACTION! 防災・減災」を展開した。

当支部では関係機関の協力を仰ぎ、WEBサイトやSNS上での特設WEBサイトURLの掲載や閲覧、ポスター掲示により備える力を高める活動の普及促進を強化した。

4) ACTION! BOUSAI キャンプフェス2024

日本赤十字社が展開する9月の「ACTION! 防災・減災」の取組みの一環として、キャンプや様々なプログラムを通じて、防災・減災への備えが命を守るための備えであるという本質を理解し、自らの行動変容や知識や工夫の周囲への拡散による防災意識の向上のため、キャンプイベントを開催した。

イベントには、県内の家族連れなど24組75名が参加し、ABITANiAジャージーファームによる災害時の牛乳の提供体制や生乳の殺菌方法の実演ほか、牛の乳しぼりや子牛のお散歩、バターづくりの体験を実施した。また、タイガー魔法瓶(株)の電気やガスを使わず新聞紙1部でおいしいごはんが炊ける「魔法のかまどごはん」を使用した炊飯体験のほか、関係団体による薪割や火起こし、心肺蘇生など災害時にも役立つ様々な体験プログラムを実施した。

期	日	令和6年9月7日～8日(1泊2日)
場	所	モヤヒルズオートキャンプ場(青森市)
主	催	日本赤十字社青森県支部
共	催	株式会社エフエム青森
後	援	青森地方気象台、特定非営利活動法人 青森県防災士会、東奥日報社、株式会社陸奥新報社、デーリー東北新聞社、青森放送株式会社、株式会社青森テレビ、青森朝日放送株式会社
協	賛	タイガー魔法瓶株式会社
協	力	青森県オート・キャンプ協会、ABITANiAジャージーファーム



災害時の牛乳の提供体制について説明をうける参加者



殺菌を終えた生乳の試飲会の様子



牛の乳しぼり体験



バターづくりに挑戦する参加者



“魔法のかまどごはん”での炊飯体験



親子で心肺蘇生を学ぶ様子



12. 青森県赤十字有功会

青森県赤十字有功会は、昭和55年5月24日、県内在住の有功章社員の参加を求めて結成され、以来、会員相互の「親睦・奉仕」を合い言葉に「人道・博愛」を使命とする赤十字事業を支援し続け、令和7年5月には45周年目を迎えます。

令和7年3月31日現在、会員数は、303名（社・団体）となっている。

（1）有功会員による仲間づくり運動の推進

会員の募集した実績		会員の寄付協力実績		合 計	
件 数	金額 (円)	件 数	金額 (円)	件 数	金額 (円)
4	2,010,000	22	11,092,800	26	13,102,800

（2）青森県赤十字有功会会員の状況

（令和7年3月31日 現在）

市郡別	区 分	個 人		法 人		計
		金色有功章	銀色有功章	金色有功章	銀色有功章	
青 森 市		33	19	35	9	96
弘 前 市		10	4	17	3	34
八 戸 市		20	4	32	3	59
黒 石 市		0	1	1	0	2
五 所 川 原 市		3	2	1	2	8
十 和 田 市		6	2	7	1	16
三 沢 市		3	0	3	0	6
む つ 市		6	2	4	0	12
つ が る 市		2	1	1	1	5
平 川 市		0	0	0	0	0
小 計		83	35	101	19	238
東 津 軽 郡		3	5	4	4	16
西 津 軽 郡		0	1	2	1	4
中 津 軽 郡		0	0	0	0	0
南 津 軽 郡		1	1	1	0	3
北 津 軽 郡		1	0	0	1	2
上 北 郡		2	4	6	3	15
下 北 郡		1	2	3	0	6
三 戸 郡		14	2	1	0	17
小 計		22	15	17	9	63
県 外		2	0	0	0	2
合 計		107	50	118	28	303

※会員総数 303 (内訳) 個人 157 名 法人 146 社



通常総会の様子



新年祝賀互礼会にて新年の挨拶を述べる村井副会長

(3) 令和6年度 青森県赤十字有功会主要事業

項 目 / 概 要			
1) 有功会員による仲間づくり運動の推進			
令和6年度協力実績	26件	13,102,800円	令和7年3月31日現在 個人・法人会員数 303人・社 ※前年度 321人・社
(内訳)			
新規有功章等募集	4件	2,010,000円	
会員による寄付金	22件	11,092,800円	
2) 地区赤十字有功会への活動の助成			
地区有功会活動助成金	3地区	66,100円	
(内訳)			
弘前市赤十字有功会		26,100円	
平内町赤十字有功会		20,000円	
蓬田村赤十字有功会		20,000円	
3) 有功会報の発行			
有功会報 第79号発行（発行日：令和7年3月）			全会員ほか関係者等へ送付
4) 各種義援金等寄託			
令和6年度義援金・救援金	2件	20,000円	
(内訳)			
令和6年能登半島地震		10,000円	
令和6年9月能登半島大雨		10,000円	
5) 青少年・こども赤十字活動支援			
品名：けんけつちゃんハンドタオル（ラベンダーグレー）		300枚贈呈	
6) 各種行事等			
①監査会（7月9日）			
・令和5年度事業並びに会計収支監査			
②第61回役員会（7月9日）			
・議案審議			
令和5年度事業報告及び収支決算について			
令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について			
任期満了に伴う役員の改選について			
③通常総会（8月1日：アップルパレス青森）			
・議案審議			
令和5年度事業報告及び収支決算について			
令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について			
任期満了に伴う役員の改選について			
④地区有功会総会			
・弘前市赤十字有功会総会（7月30日）			
・蓬田村赤十字有功会定時総会（8月5日）			
⑤日赤紺綬・有功会会長協議会総会（11月6日：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング）			
⑥日本赤十字社福島県支部有功会連合会結成30周年記念行事（11月26日：郡山ビューホテルアネックス）			
⑦新年祝賀会員互礼会			
・青森会場（1月9日：ホテル青森）			
・弘前会場（1月10日：弘前パークホテル）			
・八戸会場（1月14日：八戸プラザホテル）			



13. 評議員会及び監査

令和6年度における評議員会及び監査の開催状況は次のとおりである。

(1) 評議員会

① 第168回支部評議員会

開催年月日 令和6年6月10日（月）

開催場所 日本赤十字社青森県支部 大会議室

出席状況 評議員 27名

小谷知也副支部長／若佐谷典人監査委員／加川史監査委員／

高橋文雄監査委員

議長 小谷副支部長

審議議案

1. 令和5年度日本赤十字社青森県支部事業報告及び一般会計歳入歳出決算について
2. 令和5年度はまなす医療療育センター事業報告及び社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
3. 令和5年度八戸赤十字病院事業報告及び医療施設特別会計歳入歳出決算について

報告

1. 令和5年度青森県赤十字血液センター事業報告について
2. 令和6年能登半島地震災害救護報告について

② 臨時支部評議員会

開催方法 文書審議（1月17日承認）

審議議案 任期満了に伴う副支部長の選出

③ 第169回支部評議員会

開催年月日 令和7年2月7日（金）

開催場所 日本赤十字社青森県支部 大会議室

出席状況 評議員 16名

小谷知也副支部長／高橋文雄監査委員

議長 小谷副支部長

審議議案

1. 令和7年度日本赤十字社青森県支部事業計画（案）及び一般会計歳入歳出予算（案）について
2. 令和7年度はまなす医療療育センター事業計画（案）及び社会福祉施設特別会計歳入歳出予算（案）について
3. 令和7年度八戸赤十字病院事業計画（案）及び医療施設特別会計歳入歳出予算（案）について
4. 令和6年度一般会計歳入歳出補正予算（案）について
5. 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出補正予算（案）について
6. 任期満了に伴う代議員の選出について

報告

令和7年度青森県赤十字血液センター事業計画（案）について

(2) 監査

令和5年度決算監査

施 設 名	実 施 方 法 等	監査委員
日本赤十字社青森県支部	実地監査（5月22日）	若佐谷 典人 加川 史 高橋 文雄
青森県赤十字血液センター	実地監査（5月22日）	
八戸赤十字病院	実地監査（5月23日）	
青森県立はまなす医療療育センター	実地監査（5月21日）	



14. 令和6年度一般会計・特別会計決算報告

(1) 一般会計

事業費目	金額 (円)
支部収入	
社資収入	187,419,909
委託金等収入	3,702,215
補助金及び交付金収入	4,203,373
繰入金収入	41,207,256
資産収入	11,778,600
雑収入	5,615,380
前年度繰越金	18,845,314
収入合計	272,772,047

事業費目	金額 (円)
支部費	
災害救助活動及び救護資材の整備	9,514,691
赤十字看護師の養成費	1,817,226
献血普及・管下施設の指導	124,477
救急法・健康生活支援講習等普及	4,385,185
赤十字奉仕団の普及と育成強化	5,169,613
青少年赤十字の普及と育成強化	5,076,363
社会福祉活動	12,193
国際救援活動と国際開発協力事業	673,910
地区・分区の運営	14,837,706
赤十字社員の整備と増強	14,188,329
赤十字思想の普及と広報活動	5,954,987
本社の活動推進	27,482,986
施設繰り出し・補助金	11,468,640
資金積立	30,000,000
支部の運営管理	123,473,572
支出合計	254,179,878

収入支出差引額（翌年度繰越）	18,592,169
----------------	------------

(2) 社会福祉施設特別会計

収 入 の 部	金 額 (円)
受 託 事 業 収 入	846,864,148
そ の 他 の 事 業 収 入	492,774
経 常 経 費 寄 附 金 収 入	133,291
受 取 利 息 配 当 金 収 入	0
そ の 他 の 収 入	431,943
他 会 計 繰 入 金 収 入	20,968,640
そ の 他 の 活 動 に よ る 収 入	14,100,190
前 期 末 支 払 資 金 残 高	2,236,008
収 入 合 計	885,226,994

支 出 の 部	金 額 (円)
人 件 費 支 出	650,016,132
事 業 費 支 出	88,742,100
事 務 費 支 出	81,956,992
支 払 利 息 支 出	226,435
そ の 他 の 支 出	278,724
固 定 資 産 取 得 支 出	5,810,525
ファイナンス・リース債務の返済支出	3,363,305
他 会 計 繰 入 金 支 出	968,640
そ の 他 の 活 動 に よ る 支 出	37,700,624
支 出 合 計	869,063,477

収 入 支 出 差 引 額	16,163,517
---------------	------------

(3) 医療施設特別会計

① 収益的収入及び支出

事業費目	金額 (円)
収入	
医療収益	10,992,660,479
医療外収益	265,250,966
医療社会事業収益	300,000
付帯事業収益	0
特別利益	2,396,155
計	11,260,607,600
事業費目	金額 (円)
支出	
医療費用	10,237,810,814
医療外費用	58,706,236
医療奉仕費用	54,924,853
付帯事業費用	0
特別損失	6
法人税等	2,758,263
計	10,354,200,172
収入支出差引額	906,407,428

② 資本的収入及び支出

事業費目	金額 (円)
収入	
固定負債	119,759,076
資産売却収入	0
その他資本収入	782,031,443
計	901,790,519
事業費目	金額 (円)
支出	
固定資産	213,372,166
借入金等償還	688,418,353
計	901,790,519
収入支出差引額	0



15. 支部役員・評議員

(1) 支部役員・本社役員

役 職 名	氏 名	公 職 等
支 部 長	宮 下 宗一郎	青森県知事
副 支 部 長	小 谷 知 也	青森県副知事
同	熊 谷 雄 一	八戸市長
監 査 委 員	若佐谷 典 人	税理士
同	加 川 史	元つがる市商工会事務局長
同	高 橋 文 雄	元弘前市健康福祉部長
本 社 理 事	木 明 昭一郎	社会福祉法人福祉の里理事
本社代議員	木 明 昭一郎	社会福祉法人福祉の里理事
同	村 井 達	青森県赤十字有功会副会長、八戸赤十字病院運営審議会会長
同	成 田 耕 造	青森県赤十字有功会副会長、株式会社成田本店取締役会長

(2) 評議員（選出区分） ※任期：令和7年2月14日～令和10年2月13日

加 川 史（青森市地区）	田 中 武（東津軽地区）
鶴 賀 晃（青森市地区）	宮 本 はる枝（西北地区）
佐 藤 正 則（青森市地区）	佐 藤 靖 子（西北地区）
高 橋 文 雄（弘前市地区）	三 上 文 子（中南地区）
小 柳 紀八郎（弘前市地区）	鈴 木 勇（中南地区）
中 嶋 幸一郎（八戸市地区）	木 明 昭一郎（上北地区）
水 溜 広（八戸市地区）	原 子 スワ子（上北地区）
檜 山 義 則（八戸市地区）	原 子 恒 子（下北地区）
北 山 リ ヅ（黒石市地区）	井 上 悦 子（三戸地区）
小 関 光 雄（五所川原市地区）	中 村 正（三戸地区）
畑 中 チ ヨ（十和田市地区）	村 井 達（支部長）
高 橋 博 美（三沢市地区）	太 田 直 樹（支部長）
石 倉 司（むつ市地区）	成 田 耕 造（支部長）
鶴 賀 善 宏（つがる市地区）	沼 田 弘 子（支部長）
小笠原 勝 則（平川市地区）	三 上 菜穂子（支部長）

（定数30名）

長期ビジョンを道標として、「人間のいのちと健康、尊厳が守られる」世界へ。

日本赤十字社は、1877年の博愛社創設時より、国内外での戦時救護、災害救護活動をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉事業など、時代のニーズに応え様々な活動を展開してきました。創立から140年が経過し、人口構造の変化・グローバル化・ICT化・気候変動等が進む中で、多様で新しい人道問題も次々に生まれてきています。

こうした急速に変化する社会において、より柔軟かつ的確に人道ニーズに対応できる赤十字への変革が求められ、これまでの常識や経験、考え方にとらわれずに、新たな課題に果敢にチャレンジしていく必要があります。

この長期ビジョンを道標として、私たち一人ひとりが自らの発想と意志を持って活動に取り組み、どのような状況にあっても「人間のいのちと健康、尊厳が守られる」世界を目指していきたい。変わりゆく未来へ、赤十字の挑戦です。

— 「日本赤十字社 長期ビジョン」全体像 —

日本赤十字社が
取り組む社会課題

- 災害や紛争から人々が守られる社会づくり
- 人々の健康・福祉を支える地域づくり
- 互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

目指す姿

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

新たなステージへの行動指針

- 支援を受ける側に立った想像力の発揮
- 事業間・施設間の連携による相乗効果の発揮
- 先進技術を生かした事業展開
- 「選択と集中」の徹底
- 赤十字ネットワークを活用した事業推進
- 行政や関係団体、企業、大学等との連携強化
- ビッグデータ等を活用した事業推進

長 期 戦 略

— 事業戦略 —

災害や紛争時における
支援の充実とレジリエンスの強化

超少子高齢社会における
地域の健康・安全な生活の追求

多様化が進む社会における
人道の輪の拡大

— 運動基盤強化戦略 —

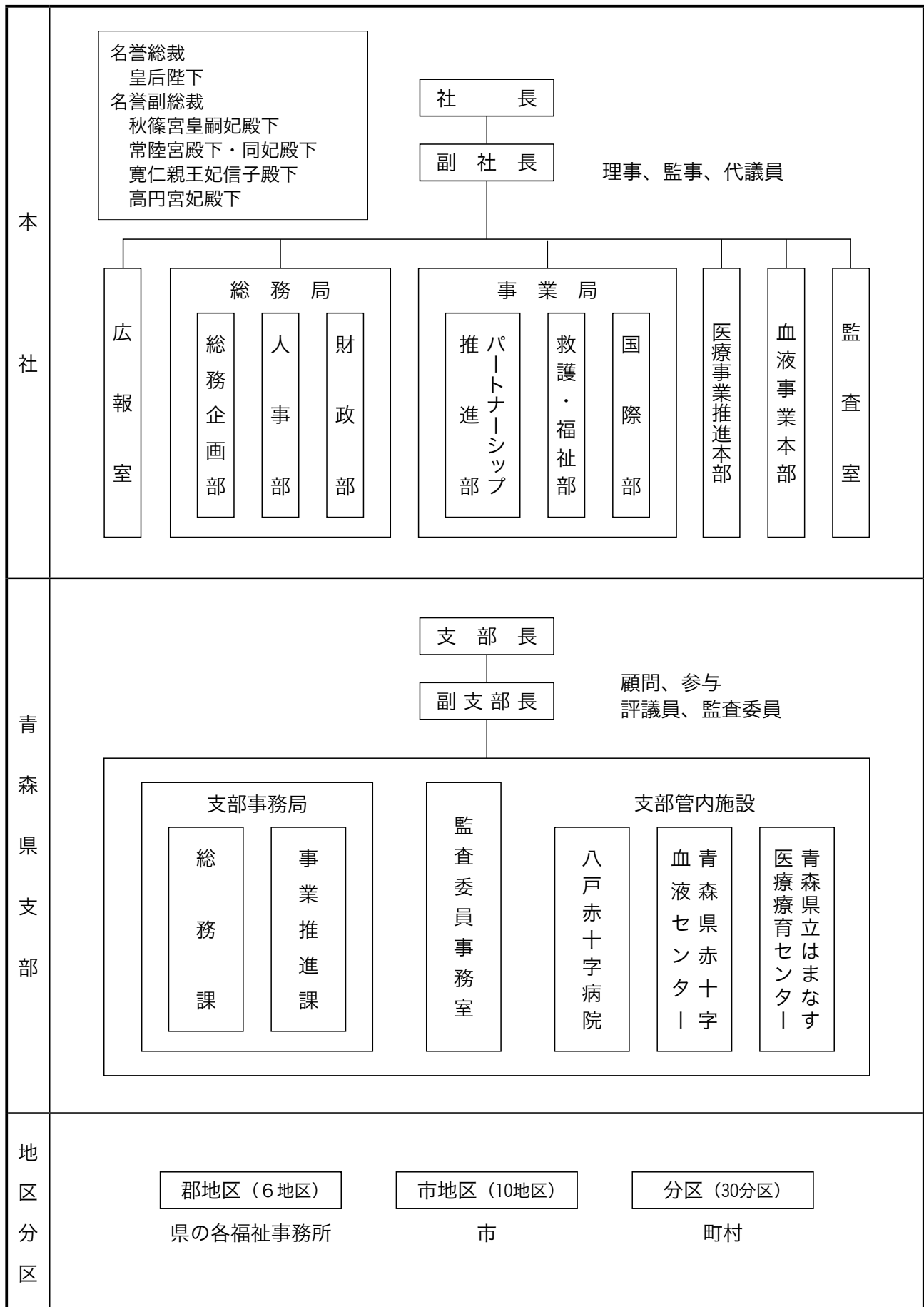
会員の赤十字運動への参画促進

奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充

国際赤十字との更なる協働

日本赤十字社の組織と機構

(令和7年4月1日 現在)



日本赤十字社青森県支部現勢

1. 沿 革

明治20年(1887)12月28日 日本赤十字社青森県委員部設立
明治28年(1895)12月28日 日本赤十字社青森支部に改称
昭和27年(1952)10月 日本赤十字社青森県支部に改称

2. 役 員

支 部 長 宮下 宗一郎
副 支 部 長 小谷 知也、熊谷 雄一
本 社 理 事 木明 昭一郎
本社代議員 木明 昭一郎、村井 達、成田 耕造
支部監査委員 若佐谷 典人、加川 史、高橋 文雄

3. 評議員 (令和7年3月31日現在)

30人

4. 赤十字会員数 (令和7年3月31日現在)

個人 2,713人／法人 360社

5. 青森県赤十字有功会員 (令和7年3月31日現在)

個人 157名／法人 146社・団体

6. 災害等救護

救護班(令和7年3月31日現在)	8班 56名	
無線局(同上)	基地局	6／移動局 39
救援車輛(同上)	5台	
受付義援金(同上)	566件 21,485,413円	
配付救援物資(令和6年度)	毛 布	85枚
	緊急セット	46個

7. 講習普及活動 (令和6年度。指導員数は令和7年3月31日現在)

区 分	講習回数	受講者数	指導員数
救 急 法	166回	4,638人	87人
水 上 安 全 法	41回	2,253人	30人
健康生活支援講習	10回	245人	5人
幼 児 安 全 法	25回	701人	12人
合 計	242回	7,837人	134人

※指導員養成講習を除く

8. 赤十字奉仕団 (令和7年3月31日現在)

区 分	団 数	登 録 数
地 域	46団	5,462人
青 年	4団	107人
特 殊	9団	591人
合 計	59団	6,160人

9. 青少年赤十字 (令和7年3月31日現在)

区 分	加盟登録数	登録人数
幼稚園・保育園	172園	8,186人
小 学 校	80校	13,822人
中 学 校	41校	8,098人
高 等 学 校	41校	750人
特別支援学校	2校	220人
合 計	336校	31,076人

指導者数 3,931人

10. 国際活動

・第1ブロック支部共同事業
ラオス救急法普及支援事業
バヌアツ青少年赤十字海外支援事業
ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業
アフガニスタン気候変動対策事業
・NHK海外たすけあいキャンペーン

11. 肢体不自由児施設

青森県立はまなす医療療育センター

医療型障害児入所施設・療養介護事業		医療型児童発達支援センター	
肢 体 不 自 由	42床	障 害 児 (通 所)	40名
重症心身障害	40床		

12. 医療施設

八戸赤十字病院 病床総数 412床 (一般374床、精神38床休床)

総患者数 (令和6年度)		一日平均患者数(令和6年度)	
入院患者	113,771人	入院患者	311.7人
外来患者	145,039人	外来患者	599.3人

13. 血液事業

青森県赤十字血液センター

施設数		車両台数(令和7年3月31日現在)	
血液センター	1	献 血 バ ス	4台
出 張 所	3	献血運搬車両	16台
献血者数 (令和6年度)		供給本数(200ml換算) (令和6年度)	
200mL	1,063人	全 血 製 剤	0本
400mL	31,943人	赤血球製剤	71,824本
血 漿 成 分	6,818人	血 漿 製 剤	23,053本
血小板成分	5,249人	血小板製剤	96,285本
合 計	45,073人	合 計	191,162本

14. 施設及び職員数

区 分	職 員 数
支 部	11人
八 戸 赤 十 字 病 院	579人
青森県赤十字血液センター	61人
はまなす医療療育センター	94人
合 計	745人

・嘱託、臨時職員等除く

15. 会計 (令和7年度当初予算)

千円

一般会計	歳 入	歳 出
支 部	249,000	249,000
社会福祉施設特別会計	歳 入	歳 出
はまなす医療療育センター	941,755	933,466
医療事業特別会計	収益的収入	収益的支出
八 戸 赤 十 字 病 院	11,473,572	11,473,007

・血液センターは各ブロックを会計単位としているため省略。
・特に断りのない統計数字等は、令和7年4月1日現在。

日本赤十字社青森県支部管下施設一覧

日本赤十字社青森県支部

〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号

TEL 017-722-2011 FAX 017-735-3502

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>

八戸赤十字病院

〒039-1104 八戸市大字田面木字中明戸2

TEL 0178-27-3111 FAX 0178-27-3121

ホームページ <http://www.hachinohe.jrc.or.jp/>

日本赤十字社青森県支部受託 青森県立はまなす医療療育センター

〒031-0833 八戸市大字大久保字大塚17-729

TEL 0178-31-5005 FAX 0178-31-4144

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>（青森県支部ホームページ内）

青森県赤十字血液センター

〒030-0966 青森市花園2-19-11

TEL 017-741-1511 FAX 017-741-1517

ホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和6年度 事業年報
